

黒部市議会  
議会改革特別委員会

議員定数に関する報告

令和3年11月30日

報告にあたり

黒部市議会は、これまで、議会基本条例、政治倫理条例の制定を行いました。それらに基づき、議会報告会の開催、議会だより編集方法の見直し、本会議での一問一答や反問権の導入、タブレット活用や政務活動費の見直しなど、15年間にわたり議会改革を進めてきました。

そのなかで、議員定数に関しては、合併経過を考慮し段階的に削減し、前回の平成30年10月市議選は定数18名で執行され、無投票により18名が選出されました。今後は、令和4年4月に欠員1名の補欠選挙、令和4年10月には改選が予定されています。

さて、黒部市を含む地方自治体は、急激な変化の真ただ中です。人口動態では、日本全体における少子化と高齢人口の増加、人口移動では若者世代の大都市圏への転入超過が止まりません。また、地方財政では、三位一体の改革や消費増税など国民の痛みを伴い現在に至りましたが、将来に渡り安定した地方財政を見通せない状況です。

このような時代において、地方議会は、議決機関として、また行政の監視機能として求められる役割が増大しています。私たちは、本委員会を通して、黒部市議会のあるべき姿を議論しました。第一に「市民からの付託に応えられる役割を果たしていく」、第二に「人口動態変化など時代の変化に対応していく」、この2つを特に心掛けて審査してきました。

この報告書は、本委員会で議論してきたことを振り返る内容となっています。この内容を基に議会及び議員一人ひとりが、市民の皆様方と向き合い、市議会の機能強化に対して不断の努力を行い、引き続き付託に応えていく一助になることを期待しています。

なお、議員のなり手不足や、女性や若者の立候補など多様な人材の進出について推進すべきとの意見や、地域性や小学校統合の影響について、そして議員報酬や年金保障制度等について多くの意見が出されました。これらについて、本委員会では黒部市にとって大きな課題であると共通認識するに留まったところです。

令和3年11月30日  
議会改革特別委員会  
委員長 小柳 勇人

## 目 次

1. 議会定数に取り組む目的	1
2. 議会改革について、これまでの経緯	4
3. 特別委員会の経過	7
4. 課題の整理	10
5. 自由討議の内容	20
6. 各委員からの提案内容	31
7. 委員会としての提案内容	39
8. 各種団体からの意見聴取	42
9. 議会報告会の開催	50
10. パブリックコメントの実施	51

## 1. 議員定数に取り組む目的

人口減少時代においても成長が持続する自治体を目指すとともに、市民の声を市政に反映していくことを追及していくため、議員定数について取り組むこととした。

### 黒部市議会基本条例

黒部市議会基本条例では、議員定数を定める時は、市民の意見を十分に聴くことを定めている。

#### 黒部市議会基本条例

##### 第14条

議員定数及び議員報酬は、行財政改革の視点及び他市との比較だけでなく、市政の現状及び課題を十分に考慮するとともに、市民の意見を十分に聴いて定めるものとする。

### 本市の状況

平成18年3月31日の新市誕生から15年が経過した。この間、全国の地方自治体は、東日本大震災による防災減災対策の強化、三位一体改革等による地方財政の弱体化、人口減少時代の到来など大きな課題に取り組んできた。本市としては、合併特例債など市町村合併の優遇制度を活用して、北陸新幹線開業関連の社会投資、新庁舎や公民館、(仮称)市民交流センターなどの建設事業を行ってきた。

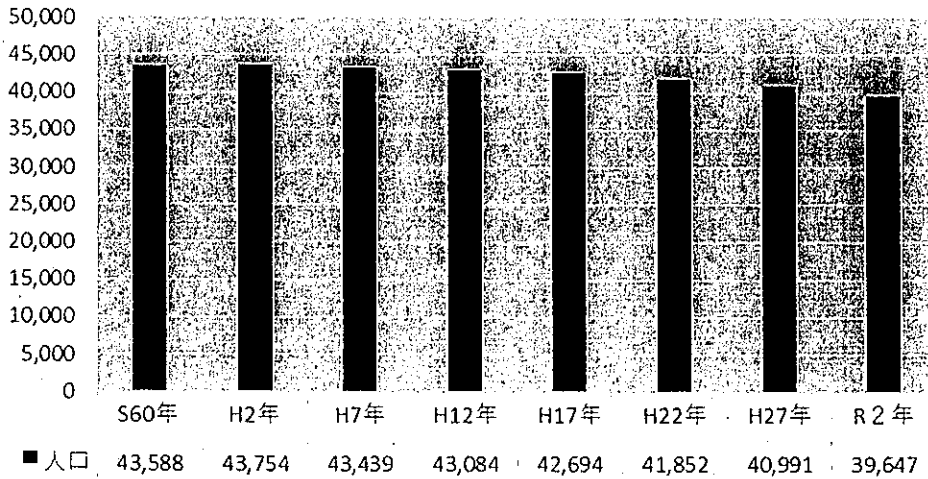
今後は、人口減少による個人市民税の減収など自主財源が減少していくことが想定され、より効率的な行政運営を求めるなかで、市民福祉の向上を目指していくことが必要である。

市議会として、市政の議決機関及び二元代表制の一翼として、地方自治体の運営に関して責任を果たしていくことが求められる。

人口動向

令和2年の国勢調査速報値では、人口は39,647人であった。

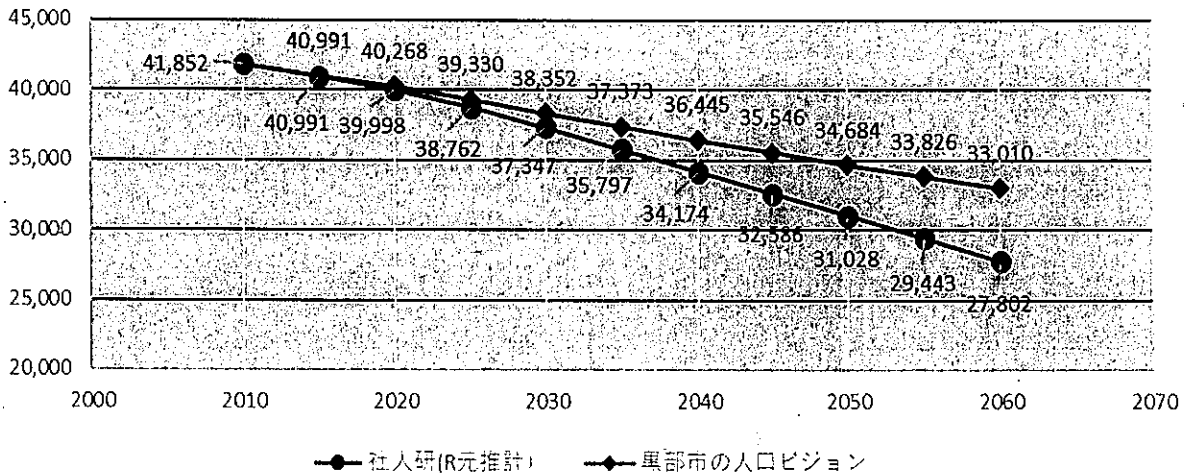
黒部市の人口推移（国勢調査）



平成2年の43,754人をピークとして、令和2年では速報値で39,647人となった。平成17年から令和2年の15年間で本市の人口は92.9%、3,047人が減少し、人口が減少していく時代に突入した。

令和2年の黒部市人口ビジョンでは、2060年の目標を33,000人としている。

黒部市が目指す将来人口



黒部市人口ビジョン（令和2年改訂版）では、国立社会保障・人口問題研究所の推計から諸施策を講じ2060年の推計人口を33,010人としている。なお2020年（令和2年）の国勢調査速報値39,647人との比較では、黒部市人口ビジョンでは621人多い40,268人、社人研推計では、351人多い39,998人となっている。

平成30年市議会議員選挙の影響

平成30年10月21日執行の市議会議員選挙は、定数18人に対して18名が立候補し、無投票選挙であった。これまで3回の市議選は、定数を超える立候補があり投票により議員が選出されてきた。前回は立候補届の提出や無投票選挙など選挙戦のあり方について様々な意見が出された。

○黒部市議会議員選挙 投票結果

実施年	選挙区	定数	立候補者数	平均年齢	(女性候補)	(新人候補)	常任委員会数	委員会定数	有権者数	投票者数	投票率	当選ライン
平成18年	黒部	16	17	63	1	2			30,007	22,735	75.77%	894
	宇奈月	6	7	56	0	1			5,075	4,278	84.30%	470
	合計	22	24	61	1	3	3	7.7.8	35,082	27,013	77.00%	
平成22年		20	22	63	1	5	3	7.7.6	34,852	26,228	75.26%	754
平成26年		18	21	60	2	6	3	6.6.6	34,480	23,641	68.56%	784
平成30年		18	18	62	2	6	3	6.6.6	35,047	無投票		

- ※ 総務省「市町村議員の現状」によると、議員平均年齢は、平成30年「59.6」歳。  
(黒部市の平均年齢は、立候補時に+2歳。平成30年では全国平均より「4.8歳」上。)
- ※ 総務省「市町村議員の現状」によると、女性議員の割合は、平成30年「15.2%」  
(黒部市議会の女性議員は、定数18の場合、15.2%では「2.73人」)
- ※ 平成30年は無投票のため、告示日の前日(10/13)の有権者数を記載。

## 2. 議会改革について、これまでの経緯

### 黒部市議会基本条例の制定

黒部市議会基本条例とは

議会が常に市民の代表機関であることを自覚し、市民及び市長等との関係、議会及び議員の活動原則など議会に関する基本的な事項を定めることにより、市民の負託に応え、もって市民福祉の向上と公正で民主的な市政発展に寄与することを目的とする条例。前文と16条の本則及び附則で構成される本市議会の最高規範である。

### 審議の経過

平成26年12月18日 議会改革特別委員会設置。

以後平成27年12月8日までに特別委員会及び幹事会を合計19回開催し協議した。

平成27年12月17日 本議会において全会一致にて可決成立。

### その後の検証

平成31年3月から令和元年12月にかけて7回開催

平成27年12月17日から平成30年10月まで（前任期中）に取り組んできた議会改革の実績の評価を行った。現在の議員で議会基本条例の認識を深め、現状における課題の共有を図った。

### 黒部市議会議員政治倫理条例の制定

黒部市議会議員政治倫理条例とは

議会は、市民を代表する議決機関として、公正性、透明性及び信頼性を重視し、市民に開かれた議会づくりを進めていく必要があり、そのためにも、議員一人ひとりが市民全体の代表者として、その倫理性を常に自覚し、良心及び責任感を持って市民の信頼を得るよう努めなければならない。本市議会では政治倫理の基本となる事項を定めることにより、議員が政治倫理の一層の向上に努めるとともに、市民に信頼される議会づくりを進め、もって市勢の健全な発展に寄与することを目的とする条例。

### 審議の経過

令和2年3月18日から令和2年12月4日までに特別委員会及び幹事会を合計14回開催し協議した。

令和2年12月7日 本議会において全会一致にて可決成立。

## 議会報告会の開催

第1回 平成28年5月25日

- 内容
- ・ 常任委員会報告（総務文教、生活環境、産業建設）
  - ・ 特別委員会報告（議会改革、運営委員会、予算、総合交通対策、公共施設等あり方検討）
  - ・ 質疑応答と意見交換

第2回 平成28年10月25日

- 内容
- ・ 政務活動費の取り扱いについて報告
  - ・ 常任委員会報告（総務文教、生活環境、産業建設）
  - ・ 特別委員会報告（決算、総合交通対策、公共施設等あり方検討）
  - ・ (仮称)くろべ市民交流センター建設検討委員会報告
  - ・ 質疑応答と意見交換

第3回 平成29年5月30日

- 内容
- ・ 常任委員会報告（総務文教、生活環境、産業建設）
  - ・ 特別委員会報告（議会改革、予算、総合交通対策、立山黒部ジオパーク促進、第2次総合振興計画検討）
  - ・ (仮称)くろべ市民交流センター建設検討委員会報告
  - ・ 質疑応答と意見交換

第4回 平成30年7月23日

- 内容
- ・ 常任委員会報告（総務文教、生活環境、産業建設）
  - ・ 特別委員会報告（議会改革、予算、総合交通対策、立山黒部ジオパーク促進、第2次総合振興計画検討）
  - ・ 質疑応答と意見交換

第5回 令和元年7月25日

- 内容
- ・ 常任委員会報告（総務文教、生活環境、産業建設）
  - ・ 特別委員会報告（観光・都市活性化振興、学校統合及び跡地利用対策、議会改革）
  - ・ 質疑応答と「議員定数」について意見交換



第6回 令和2年11月4日

- 内容
- ・新型コロナウイルス感染症対策の取組み
  - ・政治倫理条例について
  - ・質疑応答と意見交換

### 3. 特別委員会の経過

#### 特別委員会の進め方

多様な意見を抽出し、最大公約数を目指すことを基本とした。委員会では最終的な賛否を決めることでなく、議員定数について課題を整理し、黒部市のあるべき市議会の姿を議論していくことに留意し進行した。

また、議論の内容や経過については、この報告書でまとめている。

#### 委員会及び幹事会の開催経過

開催日	会議名	協議事項
令和2年12月17日	委員会	議会改革に係る課題の整理
令和3年1月21日	委員会	議会改革に係る課題の整理
2月3日	幹事会	協議の進め方について
19日	委員会	結論時期について
3月18日	委員会	スケジュール及び課題について
4月7日	幹事会	スケジュール及び課題の取りまとめ
21日	委員会	スケジュール及び課題について
30日	委員会	スケジュール及び課題について 常任委員会のあり方について（現状確認）
5月12日	幹事会	各種団体からの意見聴取及び常任委員会のあり方に係る意見整理
21日	委員会	スケジュール及び課題について 常任委員会のあり方について、（議論）
6月14日	幹事会	常任委員会のあり方について（意見の取りまとめ（案）の確認） 類似団体・近隣団体との比較について（提出意見の整理）
7月6日	委員会	常任委員会のあり方に係る意見取りまとめ 類似・近隣団体との比較方法についての議論 定数18名における議会のあり方について現状確認

【黒部市議会 議会改革特別委員会 「議員定数」に関する報告】

開催日	会議名	協議事項
令和3年 7月13日	幹事会	類似・近隣団体との比較について意見の取りまとめ（案）の確認 定数18名における議会のあり方についての提出意見の確認
21日	委員会	類似・近隣団体との比較について意見の取りまとめ 定数18名における議会のあり方についての意見確認及び議論
8月 6日	幹事会	報告書の作成スケジュールについて
17日	幹事会	定数18名における議会のあり方について意見取りまとめ（案）の確認 議員定数についての自由議論について
20日	委員会	定数18名における議会のあり方について意見取りまとめ 議員定数についての自由議論
9月22日	委員会	議員定数に係る提案について意見集約 議員定数について提案の取りまとめ（案）について
10月 5日	委員会	議員定数に係る提案について意見集約
7日	委員会	議員定数に係る提案の取りまとめ
22日	委員会	中間報告のとりまとめ
11月19日	委員会	パブリックコメントの回答について
30日	委員会	パブリックコメントの実施結果について 最終報告書のとりまとめ

各種団体との意見交換

議員定数に関する中間の取りまとめを行った後、議員定数について、市内の地域、経済団体等の意見を聴取するため下記により意見交換を行うこととした。

○実施時期 令和3年10月下旬～11月中旬

○実施団体 ・黒部市自治振興会連絡協議会  
・黒部商工会議所

【黒部市議会、議会改革特別委員会 「議員定数」に関する報告】

- ・公益社団法人黒部青年会議所
- ・黒部市女性団体連絡協議会

○実施方法 団体ごとに実施することとし、その詳細については各団体と協議する。

### 市民パブリックコメント

議員定数に関する中間の取りまとめを行った後、議員定数について、市民から広く意見を求めるため、下記により市民パブリックコメントを実施することとした。

#### ○パブリックコメントの対象

「黒部市議会 議会改革特別委員会 議員定数に関する中間報告」（本報告書）

○上記報告の公表予定日 令和3年11月1日（月）

#### ○意見提出者の要件

次のいずれかに該当する方（法人、団体等含む。）

- ① 黒部市内に住んでいる方
- ② 黒部市内の会社、事業所等に勤務する方
- ③ 黒部市に対して納税義務のある方
- ④ 今回の事案に利害関係のある方

#### ○上記報告の入手方法

- ① 黒部市ホームページ (<https://www.city.kurobe.toyama.jp/>) に掲載する。
- ② 黒部市役所議会事務局、宇奈月市民サービスセンター、生涯学習文化スクエア「ぷらっと」、各地区公民館で閲覧できる。

#### ○意見の提出方法

意見書（別紙様式又は任意の様式）に意見及び住所、氏名、連絡先（電話番号又は電子メールアドレス）を明記し、次のいずれかの方法により提出する。

- ・郵送又は持参する場合  
（住所）〒938-8555 黒部市三日市1301 黒部市役所議会事務局あて
- ・ファクシミリする場合  
（FAX番号）0765-54-9239 議会事務局あて
- ・電子メールを利用する場合  
（電子メールアドレス）[gikaijimukyoku@city.kurobe.lg.jp](mailto:gikaijimukyoku@city.kurobe.lg.jp) 議会事務局あて

○意見書提出期限 令和3年11月22日（月） 17時15分（必着）

#### 4. 課題の整理

令和3年3月18日の委員会において、議員定数を議論するにあたり検討が必要な課題について各委員より意見を募った。その経過において、現在の定数になった根拠の検証、現状定数分析、予算特別委員会及び決算特別委員会のあり方、類似団体比較、立候補への課題に意見集約され、4月30日の委員会において、その中より次の3つを議論していく課題として絞り込んだ。

##### 「常任委員会のあり方」

議会で審議される各議案は、常任委員会に付託され審議されることから、常任委員会が議会の審議機関である。議会審議の活性化を目指し、常任委員会の設置数や所属委員数など「常任委員会のあり方」を大きな課題とした。

##### 「類似団体・近隣団体との比較」

黒部市議会の議員定数について客観的に検証するために他市と比較することにした。類似団体は、日本全国の黒部市と類似した市と比較することで客観的データに基づいた検証を目的とした。県内の周辺団体は、県内の同規模市と比較することで富山県の実情にそった検証を目的とした。

##### 「定数18名における議会のあり方」

現在の定数18人に対して、各委員が考えている現状における課題、特長、今後の方向性など議員相互に議論をしていくことを目的に大きな課題とした。

これら3つの課題について検討整理し、それぞれ意見を取りまとめた。

「常任委員会のあり方」（7月6日 委員会）

○議員定数と常任委員会の合併後の経過

議員任期	議員定数	常任委員会				
		数	名称	定数	所管部	任期
H18. 11. 1～H22. 10. 31	22	3	総務文教	7	総務企画部 教育委員会	H18. 11. 1～H20. 10. 31 H20. 12. 4～H22. 10. 31
			生活環境	8	市民生活部 上下水道部 市民病院	
			産業建設	7	産業経済部 都市建設部	
H22. 11. 1～H26. 10. 31	20	3	総務文教	7	総務企画部 教育委員会	H22. 11. 1～H24. 10. 31 H24. 11. 21～ H26. 10. 31
			生活環境	7	市民生活部 上下水道部 市民病院	
			産業建設	6	産業経済部 都市建設部	
H26. 11. 1～H30. 10. 31	18	3	総務文教	6	総務企画部 教育委員会	H26. 11. 4～H28. 11. 3 H28. 11. 21～ H30. 10. 31
			生活環境	6	市民生活部 市民病院	
			産業建設	6	産業経済部 都市建設部	
			※H29. 4～上下水道部と都市建設部が統合			
H30. 11. 1～R4. 10. 31	18	3	総務文教	6	総務管理部 教育委員会	H30. 11. 1～R2. 10. 31 R2. 11. 20～R4. 10. 31
			生活環境	6	市民福祉部 市民病院	
			産業建設	6	産業振興部 都市創造部	
			※R3. 4～部の名称変更			

現在は、総務文教委員会、生活環境委員会及び産業建設委員会の3常任委員会（定数各6名）において、全議員がいずれか一つの常任委員会に所属している。

○取りまとめた意見

〈常任委員会の所属について〉

- ・ 1人1常任委員会（現状）がよい。
- ・ 1人複数常任委員会がよい。
- ・ 1人の所属する常任委員会数は平等がよい。

〈常任委員会の数について〉

【黒部市議会 議会改革特別委員会 「議員定数」に関する報告】

- ・ 3 常任委員会（現状）がよい。
- ・ 4 常任委員会がよい。

〈その他〉

- ・ 常任委員会の機能を強化すべきである。

「類似団体・近隣団体との比較」（7月21日 委員会）

人口及び産業構造による総務省の分類「I-2」の類型に属する全国78市より、「人口」と行政財政規模を示す「基準財政需要額」の両方が同規模の8市を類似団体として選定し、比較対象とした。合わせて、県内10市のうち、総務省の分類「I-2」の類型に属する5市を近隣団体の比較対象とした。これら類似団体及び近隣団体との比較・考察を行い、意見を取りまとめた。

類似団体(全国の自治体より人口・行政財政規模の両方が同規模)と考えられる8市と黒部市との比較  
人口比較

団体 コード	都道府県	団体名	議員 定数	人口比較				黒部市 2,284人 の議員定数	常任委員会
				人口	対黒部	議員1人 あたり	対黒部		
282201	兵庫県	加西市	15	44,080	1.07	2,939	1.29	19.3	総務8・建設経済厚生7・予算決算15
282138	兵庫県	西脇市	16	40,412	0.98	2,526	1.11	17.7	総務産業8・文教民生8・予算15
282286	兵庫県	加東市	16	40,348	0.98	2,522	1.10	17.7	総務文教7・産業厚生8
082317	茨城県	桜川市	18	41,440	1.01	2,302	1.01	18.1	総務6・文教厚生6・建設経済6
162078	富山県	黒部市	18	41,016	1.00	2,284	1.00	18.0	総務文教6・生活環境6・産業建設6
332071	岡山県	井原市	18	39,912	0.97	2,217	0.97	17.5	総務文教6・市民福祉6・建設水道6・予算決算17
252140	滋賀県	米原市	18	38,937	0.95	2,163	0.95	17.0	総務教育6・健康福祉6・産業建設6・予算18
442062	大分県	臼杵市	18	38,231	0.93	2,124	0.93	16.7	総務6・建設産業6・教育民生6
342084	広島県	府中市	20	38,998	0.95	1,950	0.85	17.1	総務文教7・厚生7・建設6
	平均値		17.4	40,386	0.98	2,336	1.02	17.7	

1 議員1人あたりの人口数、黒部市は平均値「2,336人」からやや低い「2,284人」。最高値は「2,939人」、最低値は「1,950人」。

基準財政需要額比較(地方交付税の算定基準となる、地方自治体に必要な財政規模)

団体 コード	都道府県	団体名	議員 定数	基準財政需要額比較				黒部市 542,424千円 の議員定数
				基準財政 需要額	対黒部	議員1人 あたり	対黒部	
282201	兵庫県	加西市	15	9,193,114	0.94	612,874	1.13	16.9
282138	兵庫県	西脇市	16	9,786,299	1.00	611,644	1.13	18.0
332071	岡山県	井原市	18	10,614,035	1.09	589,669	1.09	19.6
282286	兵庫県	加東市	16	9,238,398	0.95	577,400	1.06	17.0
252140	滋賀県	米原市	18	10,162,225	1.04	564,568	1.04	18.7
442062	大分県	臼杵市	18	10,013,884	1.03	556,327	1.03	18.5
162078	富山県	黒部市	18	9,763,629	1.00	542,424	1.00	18.0
082317	茨城県	桜川市	18	9,444,390	0.97	524,688	0.97	17.4
342084	広島県	府中市	20	9,830,789	1.01	491,539	0.91	18.1
	平均値		17.4	9,782,974	1.00	563,459	1.05	18.0

2 議員1人あたりの基準財政需要額、黒部市は平均値「563,459千円」からやや低い「542,424千円」。最高値は「612,874千円」、最低値は「491,539千円」。



類似団体の数値から、黒部市の現況人口、基準財政需要額に対応した試算

項目	人口	1㉔人口	議員数	基準財政需要額	1㉔基準	議員数
黒部市	41,116	2,284	18.00	9,768,629	542,424	18.00
平均値	41,116	2,336	17.60	9,768,629	563,459	17.33
最高値	41,116	2,939	13.99	9,768,629	612,874	15.93
最低値	41,116	1,950	21.09	9,768,629	491,539	19.86

1 議員1人あたりの人口を最高値2,939人とした場合は、黒部市の人口では議員数は「13.99人」。議員1人あたりの基準財政需要額を最高値612,874千円とした場合は、黒部市の規模では議員数は「15.93人」

2 議員1人あたりの人口を最低値1,950人とした場合は、黒部市の人口では議員数は「21.09人」。議員1人あたりの基準財政需要額を最低値491,539千円とした場合は、黒部市の規模では議員数は「19.86人」

3 類似団体比較の指標を黒部市に置き換えると、議員定数は、「13.99」人から「21.09」人の範囲が類似団体比較から算出可能。

近隣団体(県内10市より人口・行政財政規模の大きな4市を除く)と黒部市との比較  
人口比較

団体 コード	都道府県	団体名	議員 定数	人口比較			黒部市 2,284人 の議員定数	常任委員会
				人口	対黒部	議員1人 あたり		
162051	富山県	水見市	17	46,732	1.14	2,749	20.5	企画総務6・厚生文教6・産業建設5
162086	富山県	砺波市	18	48,354	1.18	2,686	21.2	総務文教6・民生病院6・産業建設6
162043	富山県	魚津市	17	41,672	1.01	2,451	18.2	企画総務6・民生文教6・産業建設6
162078	富山県	黒部市	18	41,116	1.00	2,284	18.0	総務文教6・生活環境6・産業建設6
162060	富山県	滑川市	15	33,284	0.81	2,219	14.6	総務文教消防8・産業厚生建設7
162094	富山県	小矢部市	16	29,783	0.72	1,861	13.0	総務産業建設8・民生文教8
		平均値	16.8	40,157	0.98	2,375	17.6	

1 議員1人あたりの人口数では、黒部市は、平均値「2,375人」からやや低い「2,284人」。最高値は「2,749人」、最低値は「1,861人」。

基準財政需要額比較(地方交付税の算定基準となる、地方自治体に必要な財政規模)

団体 コード	都道府県	団体名	議員 定数	基準財政需要額比較			黒部市 542,424千円の 議員定数
				基準財政 需要額	対黒部	議員1人 あたり	
162051	富山県	水見市	17	10,402,687	1.07	611,923	19.2
162086	富山県	砺波市	18	10,985,970	1.13	610,332	20.3
162078	富山県	黒部市	18	9,763,629	1.00	542,424	18.0
162043	富山県	魚津市	17	8,210,813	0.84	482,989	15.1
162094	富山県	小矢部市	16	6,859,780	0.70	428,736	12.6
162060	富山県	滑川市	15	6,007,351	0.62	400,490	11.1
		平均値	16.8	8,705,038	0.89	512,816	16.0

2 議員1人あたりの基準財政需要額では、黒部市は平均値「512,816千円」からやや高い「542,424千円」。最高値は「611,923千円」、最低値は「400,490千円」。

近隣団体の数値から、黒部市の現況人口、基準財政需要額に対応した試算

項目	人口	1@人口	議員数	基準財政需要額	1@基準	議員数
黒部市	41,116	2,284	18.00	9,763,629	542,424	18.00
平均値	41,116	2,375	17.31	9,763,629	512,816	19.04
最高値	41,116	2,749	14.96	9,763,629	611,923	15.96
最低値	41,116	1,861	22.09	9,763,629	400,490	24.38

1 議員1人あたりの人口を最高値2,749人とした場合は、黒部市の人口では議員数は「14.96人」

議員1人あたりの基準財政需要額を最高値611,923千円とした場合は、黒部市の規模では議員数は「15.96人」

2 議員1人あたりの人口を最低値1,861人とした場合は、黒部市の人口では議員数は「22.09人」

議員1人あたりの基準財政需要額を最低値400,490千円とした場合は、黒部市の規模では議員数は「24.38人」

3 近隣団体比較の指標を黒部市に置き換えると、

議員定数は、「14.96」人から「24.38」人の範囲が近隣団体比較から算出可能

○取りまとめた意見

- ・類似団体・近隣団体のデータは比較するうえで参考になる。
- ・黒部市の定数 18 人は類似団体と比較して適正数である。
- ・現状の定数 18 人は 3 常任委員会の機能を維持するにはミニマムな数であり、定数を削減する場合、委員会構成等の内部改革を伴えば、比較的定数が少ない類似団体のような事例も考えられる。

「定数 18 名における議会のあり方」（8 月 20 日 委員会）

現在の定数 18 名における議会のあり方について議論し、意見を取りまとめた。

（以下、委員からの意見）

- 議会基本条例が基軸。議会の活動原則に則り、政策立案等の強化や市政運営の監視など、より充実していく不断の努力が求められる。現況からは、議決事件の拡大や議員間の討議など、さらに活性化していく余地があると感じている。  
議会のあり方として、常任委員会の活性化をもっと進めるべき。定数 18 名の現状について、人数の多い少ないではなく、議会のあり方について議論を深め、常任委員会の役割とそのため適切な人数から議員定数を導く手法を期待したい。
- 次回特別委員会での議論の参考として私見を述べる。  
去る、7 月 6 日の改革特委の際の議員発言の中で、令和元年 7 月の議会報告会を振り返り、「現行定数 18 人を肯定する意見が多数であり、定数 18 人でよい」との発言があった。  
しかしながら、報告会における発言内容を熟読すると定数 18 名を概ね妥当とする者は 8 名中 4 名、その中においても議員の質や報酬に対する不満・疑問の声も見て取れる。ましてや事前応募意見(10 名)では 6 人が削減賛成、他 3 人は無投票選出に問題ありとしている。  
市民の皆様は決して現行定数でよいとしているとは思わない。議員自らが都合のいい解釈をしているのではと考える。  
また、昨年 11 月の WEB 研修会、元全国市議会議長会広瀬講師の「黒部市の定数 18 人は議会構成上概ね妥当」との発言はあくまでも理論上の数値であり、その増減は当該議会の置かれた立場及び構成上の工夫により変更されるべきものと考ええる。  
以下、私見であるが定数は 2 名減の 16 人とし、それに応じた常任委員会数（2 委員会又は複数所属可能な 4 委員会等）とすべきではと考える。  
議会で削減意思を明らかにし、自治振興会等の各団体との意見に臨むべきと考える。
- 定数問題は今、少ないからとか現状維持でいいなら議論はしていない。議員みんなが多いと思っているからではないか。実際に 3 年前の選挙の時、無投票であった。市民は見ている。定数は減らすべきだと思う。しかしながら、市民サービスが減るとか、議員のいない所が出てくる。それが問題である。

● 議員数 現状18名で賛成

理由 ①常任委員会は議長含め全議員が所属することに賛成なので、常任委員会3つ×6名と考えているから。

②類似団体、近隣団体と参考比較しても概ね、現在の18名でよいと判断されるから。

今回は議員数に対する意見なのですが、3つの常任委員会名は黒部市の部署名変更により、妥当かどうか、検討したい。(まず、常任委員会数が決まってからであるが)

● 議員定数についての考えを述べる。

現状の議員定数18名に固執しない。今後の人口減少、高齢化、広域連携が進む状況の中で、18名の定数より少ない定数であっても、議会運営、特に常任委員会が活発に審議されるためには、どうすればよいか考えるべきである。

自治体の人口規模が小さくなれば、財政規模が小さくなるのは普通であり、議員定数も減少するのは当然である。議案件数、審査内容も減少(縮小)するのは十分想定される。

ここ数年間の委員会の審査状況を見ると、1つの委員会で審査する内容が少なくなっている(偏っているのかもしれない)ように思う。

一方、委員会を構成する委員数は最低でも常時6~7が必要と考え、委員会の定数は7名以上が適切である。

以上から、議員定数が減少した場合でも、常任委員会において適切な審査が出来るよう委員会の在り方を十分検討すべきである。

現在「新型コロナウイルス対策特別委員会」において予算については、全員で審査し、条例、その他については、各常任委員会で審査している。

市の財政、事業を審査するのに、2つの常任委員会でも十分可能である。一方、予算、決算については全員が把握し審査するのが望ましいので、予算決算常任委員会を設置し、市の担当部局等を2つに分割した2常任委員会で良いのではないかと考える。兵庫県の3市の取組みがそれに該当するようである。調査・研究すべきと思う。

以上より、議員定数は18名未満であっても、これからの議会は十分運営できるものとする。

5. 自由討議の内容（原文のまま）

令和3年8月20日、委員会において、全委員が各々の議員定数に対する考えや思いを述べ、自由討議を行った。

<p>A委員</p>	<p>議員定数について現時点では現状維持でよいのではないかと考えている。ただ、議論していく中で、現状維持がよいのか削減すべきかを自分の中でより明確にしたい。まずは定数18名で何か問題があるのか、18名を変更しなければならぬ明確な根拠がどこにあるかを導き出したい。現状より適正な定数が判断できるのであればそうすべきである。課題でも取り上げた常任委員会人数を考えた場合、1委員会6名が最低人数ではないかと考える。常任委員会的人数は議員定数削減ありきで検討すべきでないと思っている。人数調整のための複数所属で負担増にするより、1つの委員会所属が適当であるのではなかと考える。削減を前提として常任委員会的人数を算出により導き出すのは適切なのか疑問に感じる。次に、議会の資質や前回無投票ということもあり、様々な意見があることも事実である。しかし、まずは議会、議員としての活動を振り返り、より住民に寄り添った活動をするために何が最適か議論する必要がある。市民からの意見の中にもある選挙にするための人数調整は本当に議論の対象にしてもよいのか疑問である。議員になりたい人を増やすためにはどうすべきか、女性議員や若手議員を増やすという視点も必要であり、そのために議会としてどのような活動をすべきか議論できればよい。そのような議論の結果、定数がどのような結果になろうと、市民に対し説明責任をしっかりと果たし理解を求めるという姿勢が大切であると考えている。最後に定数削減は見栄えがよいが、地域の声が届かなくなる。市民の多様な意見や意思を市政により的確に反映させるという、黒部市議会基本条例にもあるように、地域の課題をきめ細かに捕捉する役割が特に求められている。現状の活動を鑑みると、研修で学んだような自治協議会方式や小学校区方式を考慮するのも妥当な考えではないかと考える。</p>
<p>B委員</p>	<p>現状維持でやっていくことが妥当ではないかと考える。仮に定数を1人なり2人なり減らすとなるとそれだけ意見が少なくなるということである。見た目は議員を減らして厳しくやっていることになるが、結局市民へのサービスの低下になるのが一番駄目である。議員が多いか少ないかという問題よりも、4年間仕事をして、その判断は次の選挙に反映される。ここにいる17人の議員の中で市民の審判を受けていないのは、私を含め6名である。あとの議員の方は激戦を乗り切って今現在黒部市議会議員として活躍されている。</p>

	<p>選挙にならなかったことが悪のように捉えられるのなら、審判を受けていない6名は必ず次の選挙に出るとでもしなければ、定数をどれだけ増やしたり減らしたりしても、今後必ずこういうことが起きてくる。定数に足りなかったわけではないので、18名丁度だったというただそれだけのことなので、今の考えは18名そのままの定数である。</p>
C委員	<p>現状維持の18名でよいと思っている。前回の選挙は無投票であり、それにより市民から定数削減の声が上がっているが、削減によって与える影響、例えば政策立法機能への影響や監視機能等への影響を考慮しなければならない。削減することにより、議員が輩出されない地域が発生する。議員がいない地域では住民の声、意見が反映されにくくなるのではないかと考える。ただ、近年、市町村においては2割を超えて無投票になっている状況もある。無投票だったから定数を削減するのではなく、無投票になる現実を考えなければならない。なり手不足のために何を解消すべきか考えることが必要と思う。常任委員会については、現在17名で、生活環境委員会が5名であるが、1人減っていることによって、意見がそれだけ出てこない現状もあるので、3常任委員会で6名・6名・6名がよいのではないかと考えている。</p>
D委員	<p>現行定数より2名減らす16名にすべきだと思っている。根拠として、前回なぜ無投票になったのか鑑みると、少なくとも私の周りの方々については、議員に対する魅力がないのと同時にあまり議会に対して期待していないという部分、それはなぜかという点、首長があまりにも強すぎて、議会がその対峙する団体となり得ていないということも踏まえて、議会の議員の資質の問題があると思っている。18名から16名へ減ったからといって意見がなくなるというが、現行18名だとしても18名全ての方々が意見を言うかという点を決してそうでない。市民、少なくとも私の知っている方々は現行定数を減らすべきだと、今の状況ではよくないと言っている方が多いと思っている。議員定数を減らすことと同時に、良い人材を確保したい、そのためには議員報酬を上げるべきだという議論もある。あくまでも若い方々等が議員になって、生活基盤を持たざるを得ないということで、それについては賛成すべきものもあるが、現行議員報酬が決して安いとは思っていない。議員報酬は別に考える必要があると思いつつ、議員定数は県内の状況を見ても15名、17名等でやっている。常任委員会の問題も先程触れたが、3常任委員会で1つずつ最低6名が必ず必要とは思っていない。少ない人数でも、少ない常任委員会でもきちっとした議論ができる状況はいくらでも作れると思っている。そういうことから、市民の皆様の意見を踏まえるならば、16名にすべきという意見である。</p>



E委員	<p>現状の18名が最適だと思う。常任委員会については、6名、6名、私は以前も生活環境委員会だったが、その時は6名であった。今5名。この6名と5名の違いは、私個人だけではないと思うが、大きなものがあると思う。1人が減るといふことで、意見が出にくくなるのではないかと。バランス感覚は大きいと思う。定数を減らす、増やすことで一般市民の議会に対する信望、期待は、議員の定数を減らせば議員の質が上がるとか、私はそう思っていない。15名でしっかりやる、18名でしっかりやる、これは人数の関係ではなくそれぞれが本当の気持ちをもってやるかどうかという話である。前回無投票になった、我々新人6名がまるで無投票で入ったかのように考えるとするのは大きな錯覚である。我々6名が入る前に活動していた方に対して市民は目を向けていた。これは勘違いしたら駄目である。我々6名と直接は関係ない。我々は我々が入った時点から頑張るといふことが当然である。これについては、私が入ってからずっと、何かにつけてそういう意見が出てくる。一度はつきりと私の考えを言いたいと思っていた。</p>
F委員	<p>私の取巻き連中は現状維持と言えということである。魚津のことをよく言われる。調べてみると魚津は8月で40778名、黒部は7月で40667名。魚津と101人違う。しかし魚津市の今年度の一般会計は177億1700万円である。黒部市は226億500万円である。財政力、基盤財政資金額は黒部が18%、魚津は15%である。皆さんはただ人口だけ見て減らせと。例えば16名にしてもなんら給与の歳出は関係ない。2人や3人減らしても。16名になろうと、本当に減らすなら極端に10名ほどにしなければならぬ。それくらいでないと生活できない。国会でも言われたように兼業しなさいと、議員しながら他の仕事をしてもよいと。いろいろあるが私は現状維持で願う。</p>
G委員	<p>少し臨機応変に考えた方がよいと思っている。若いからいいとか女だからいいとかではなくて、能力ある人が次に出てきてほしい。出てこないのであれば削った方がいい。出てきて選挙になるのなら、現状維持でもいいと思う。生地自治振興会会長含め役員に言われているのが、何もしないで、議会でも何も発言しない、だらしのないことをして、よくわからないまま選挙に受かった。そういう人をどうやったらやめさせられるのか。これは振興会と意見交換したら必ず言ってくる。現状維持ならこれに納得できるような説明をしなければならぬし、真剣に考えなければならぬ。私は臨機応変という形で、変な議員が出てこないように、これだけである。</p>
H委員	<p>1名減の17名と思っている。類似団体を見ても今の18名はあまり遜色ないが、世論、前回無投票になったという現実は重いと思っている。削減するといつても16、15というのは私たちには経験がない。17名というのは現状</p>

	<p>今、議員が17名で活動しているという経験がある。この17名でできるのではないかと思うので、1名減の17名という意見である。</p>
I 委員	<p>現状の18名でいいと思っている。でも結論ではないので、皆さんの意見もよく聞きたいと思っている。地域の代表でないけれども、やっぱり地域の代表ということも含まれていること、女性、若手の皆さんの意見も聞きたいので、そういう皆さんが立候補してみよう、頑張ってみようという気持ちになってもらえるような議会づくりが大切である。そのためには、黒部市だけでは駄目かもしれないが、例えば年金の問題や黒部市で解決できる報酬であったり、今はそういう兼業は無理だと思っている。議員はそれ一本でやらなければ、勉強もしなければいけないし片手間というわけには今の時代はいかないと思っている。ある程度生活も保障してあげられる、若い皆さんもそれを職業できるような環境づくりも必要ではないかと思っている。常任委員会は、現在の6名が最低の人数ではないかと思うので、今は現状18名でお願いしたい。</p>
J 委員	<p>現在、黒部市も人口が減少している中、前回の選挙では無投票であった。現在、18名中1名減の17名で議会を運営していることも踏まえて、定数は2名削減が妥当であると考えている。常任委員会は後から決めればよいと思っている。</p>
K 委員	<p>私はこの委員会をやっていく中で、よく常任委員会について考えさせられた。他の市議会の様子を見ると、私たちが対応しているコロナのような全員委員会は人数が多かろうが少なかろうが黒部市にとっては貴重なやり方である。あのような形で一つの常任委員会を予算に特化してすれば、人数が減ってもいわゆる通年議会のような形で議会を動かせるのではないか。委員会は最低6名必要だろうと、ただ6名では少ないのではないかと思っている。多様な意見を出すのであれば、6名でも委員長が出れば5名であるので、6名以上が意見を出せることが必要なのではないか。結論から言うと現状というのは正直あり得ない。人口が減っていく、デジタル化も求められる、そうした時代の変化に対応する時に、議会が変わらない選択肢はないだろう。我々議会も時代に応じて変わっていく、それを市民に見せないといけない。減らす数は委員会のあり方を議論した上で、こういう形だったら黒部市議会として効率化ができるという答えを出してから総合的な人数ではないか。常任委員会に関わる人数は今よりも増やす、そのうえでどのくらいまで削減ができるのか議論したいと思う。今日は自由討議なので、皆さんの意見を聞いてから最終的に自分の考えをまとめたいと思う。</p>
L 委員	<p>これまでの色んなことを考慮、熟慮し、1名減の17名がよいと思う。</p>

<p>M委員</p>	<p>人口減少時代、黒部市も4万を割った。国勢調査ではっきりしてきた。それと今、デジタル化が急速に社会を変えていく時代でもある。そういう中で果たして市議会議員18名がいいのか悪いのか、私は始めから結論を出していたが、1名減の17名がいいのではないかと考えている。いろんな人に聞いてみると女性の方、若い方が出るような環境を作ってほしいとか、給料が安すぎるのではないかと。それは議員では決められない、報酬等審議会等いろんなことがあり、考慮してもらいたい、新しい市長や知事が出る時代の中で、新陳代謝というか、スパッと1名だけでも減らす努力をみんなですべきではないかというのが意見である。</p>
<p>N委員</p>	<p>定数18人は多いのではないかと考えている。少なくともこれから人口が増える時代ではないのは間違いないので、人口が減る、高齢化になっていく中で、どうやってこの議会をやっていくかと考えると、市の財政含めた色々なことを考えていけば定数は減っていくのではないかとこの思い。それから私は生活環境委員会にいるが、6人から5人に減って、委員長が1人、残り4人で委員会を議論するのはとてもきついという思いはしている。委員会は少なくとも最低6人は必要となれば、余裕をみれば7人とか8人が1つの委員会構成に必要なだろうと考えている。今の18人でも委員会を3つできないということになれば、委員会を2つに考えるべきだと。コロナの対策特別委員会は全体でやっている、もう2つの特別委員会は半分ずつの9人でやっている。委員会を2つにしてもやれると考えている。人口が減るのに財政も大きくなることはあり得ないと考えている。財政規模も小さくなっていけば議案も減ってくるので委員会も2つにして、予算と決算は全議員でやれる体制を取るという意見をもっている。</p>
<p>O委員</p>	<p>議会改革の定数についての議論の始まりは、現状維持又は増数、削減も考えて検討しようという形で行われたと考えている。しかし現状においては増やすことは無理だろうと思った。ならば18名現状維持でなぜ皆さんが駄目なのか、我々の今任期の選挙が無投票であったことが一つの発端であったように見受けられる。住民の方もそういったような。そこで無競争が現在の議員の責任なのか、まさに責任ではない。そう言うなら誰かが出ればいいのか、議会ばかり批判してそれでは駄目だ。議会改革の定数について望んできたことは、地方自治からみて議員はどうあるべきか、住民の意見を汲み上げることが行われているのか。今削減の話もあったが、これ以上の定数削減は地方自治の弱体化になり、住民の声が反映しにくくなる。これ以上の弱体化は住民の議会への参加を縮小することになり、逆に議員は出にくくなる。行政と議会の二院制になっているが、市に対するチェック機能が薄れていく、多様</p>

	<p>な意見が議会に反映されることがますます少なくなる。黒部市は今まで定数割れになったことは一度もない。その都度、決められた定数の中でやっている。現行 17 人で、皆さんが元気でいられればいいが、長期の入院などがあつた場合議会はどうするのか。それも一つ大きな要因である。これ以上の定数の削減は、住民の意思を反映するということにはなり得ないと思う。だから現状維持だと思う。</p>
P 委員	<p>正直大変迷っている。議員定数を検討しようとなった当初は、1 人か 2 人は減らさなければならぬと思っていたが、昨年 11 月に講師の廣瀬和夫先生の研修会を受けて、定数を減らすことが議会改革ではないという言葉、事務局から類似団体・近隣団体の資料等いろんな資料を提出していただき、一昨年の議会報告会のアンケートでも、各振興会の出席者の方々から議員定数を減らさなくてもよいというアンケートの結果がたくさんあつたので、今どうすればよいのか迷っているところである。結論はまだ出ない。</p>
Q 委員	<p>私は平成 3 年から 8 回の選挙のうち、今回含めて 2 回無競争であつた。平成 11 年に旧黒部の定数 20 に対して無競争であつた。その後合併して、黒部 16、宇奈月 6 の定数 22 で始まり、平成 22 年から定数 20、18 と続いている。30 年間やってきて、だいたい 1 人 2 人減らすのにだいたい 12 年かかっている。今は次期選挙の定数の話である。以前から言っているように、次期は現状維持でいいと思っている。その 4 年後はその時の人たちが考えていただきたい。次期選挙は 18 人で何の欠点もない。</p>
O 委員	<p>基本的な考え方をもう一度言う。定数の削減は地方自治の弱体化になり住民の声が反映しにくくなる。議員定数の削減は住民の地方自治への参加を縮小することになり、議員が出にくくなる。議員定数を減らすことは住民の代表制が薄れ、住民からすれば議員は身近な存在から遠くなることになる。多様な意見、意思を議会に反映させるという観点から見ても定数削減は問題がある。人口の少ない地域では議員を送り出すことが困難になることが予想される。住民自治の実現という憲法的価値を軽視した議員定数の削減は議会制民主主義を形骸化する恐れがあり、議員定数削減には同意できない。そういう観点から現行の 18 名とする。</p>
M 委員	<p>来年選挙があるが、出馬するということになれば、4 年間生活の保障とか年金の保障とかいろんなことをしっかりと制度的にも環境づくりをしないと、なかなか若い人、婦人の方、新しい時代を担う人たちが非常に出不にくい環境ではないかと一般の人結構言っている。議員を現状維持なのか何名削減するのかということも大事であるが、そういう環境づくりも大事だというのは市民の中でもよく聞く。今は議員の立場でどうかということだが、そう</p>

	<p>いうことも各種団体の意見を求めたということだが、そこら辺も加味していただければと思う。</p>
K委員	<p>選挙に出るのに若い人も高齢者も女性も関係ないので、皆さんが言う若い人、女性が出やすい環境と言うのであれば、具体的にどうすればよいか俎上に載せてほしい。口で言うのは簡単だが、具体的に言っていただくとなるほどと思うのだが。</p>
N委員	<p>常任委員会の運営についてかなり突っ込んで言ったが、定数が減った場合には1委員会6人を削るので、当然委員会のことを考えなければならない。委員会の中身を考えながら委員会構成を考えていかなければ難しいと思う。現状、産業建設委員会は都市創造部と産業振興部が入っていて、教育委員会と病院は2つの委員会でやっている。産業建設委員会とそれ以外の2委員会を1つにしてやるくらいの感覚でこれからしっかりやっていった方がいいと思っている。これだけ少しずつ減っているのだから、議員も勉強して切磋琢磨するべきである。委員会を3つも4つも分けてする時代ではない。予算も決算もみんなやっている。そのくらいの気概をもってやるべきである。</p>
Q委員	<p>1年半後の定数をどうするか意見を言っている。その後のことを言うよりも次期の定数の話だから、現状維持と言っている。まずは議員としては何なのか、議会人としては何なのかということである。議会としては18人が最低ラインだと思っている。各常任委員会の構成メンバーも6人が一番少ない絶対数だと思っている。当局が30人入っていてこちらは6人が最低ラインとされていて、これは維持していきたい。2常任委員会にしたりもできるが、今は次期選挙の定数の話であるから現状維持でいい</p>
A委員	<p>今の時点で18人の現状維持でいいと思って発言した。18名を変更しなければならない明確な根拠があるかどうかを自分なりに見出したい。半数ぐらいの方が削減という意見を出しているのだから、それに対して賛同できるのであればそういう考え方もあると自分なりに考えている。無投票というキーワードが出てきているが、17に減らしたから無投票にならない、18だから無投票ということに対してなぜそうなのかすごく疑問に感じる。減らしたら本当に無投票にならないのか。無投票というキーワードが大きく表に出てくること自体が少し残念である。そういう意味では未だに減らす明確なところが見出せない。いいとか悪いとかではなく、自分なりに理解して納得したいために1つだけ質問したい。D委員が言われた16人の説明の中で、市民の皆さんの意見という話があった。市民の皆さんの意見は私も非常に重要だと思う。ただ、その中に議員に魅力がない、期待していない、だから16にしないといけな、資質に問題があるという話だったと思う。議員に魅力がある、</p>

	<p>議会に対して期待しているという市民がそういう思いをしたとしたら、現状維持でもいいのかどうか質問させていただきたい。</p>
<p>D委員</p>	<p>難しい質問だが、私も少し言い過ぎた部分もあるが、市民の皆さん、特に私の周辺の皆さんの議会に対する思いや意見と定数と必ずしもマッチすべきものでもないと思っている。今の議会が果たして現行の無投票であった18名で構成する価値があるのかなのかという話は聞いた。旧黒部市は22名からどんどん一定期間に減らしてきたのは、住民の皆さんの意向もあるし、その時々議員の皆さんもそうだということで、忸怩たる思いをされる方もいただろうが、一定の減員できた。現在、18が1つの常任委員会6名を固持するがための18なら、そこに固持する必要はない。新たな常任委員会の設計をすればいいだけである。今の黒部市の速報値が4万人を切った人口のときに、何年前から同じ18人を守らなければならないのか。無投票の話もあった。無投票と必ずしもリンクしないという意見もあるかもしれないが、それほど3年前の選挙において、結果的に無投票、直前まで定員割れと言われていたが、なぜ市議会議員になりたい方がいないのか、私は現行の18に固執すべきではないと思って、市民の皆さんの意見の50%以上の多数が現行定数削減を求めていると今も思っているので、16が妥当なのではないかと思っている。</p>
<p>B委員</p>	<p>議員になりたい、なりたくないはまた別の問題として、無投票だからというのが先に出ていってしまって、私も地元で散々罵声を浴びたこともある。定員が割れたわけではなくて無投票だからというので、たいしたことない、偉そうにと言われることが多かった。今回も無投票というのがネックになっていて、本当に市民の意見を言う立場で、18が正しいのか、正しくないのかという論点が違うような気がする。人口も減少してきているという話があるが、黒部市より人口減少率をもっとひどいところがたくさんあり、人口減少だから減らすというのは議論にあげるべきでないと思う。議員定数を減らすということは、よく言われるのは若い人、女性の人いろいろ出てほしいという意見があるが、そういう人たちがこの議会に行って意見を言おうという門を狭めるということに最終的になってくる。12年に1回のスパンで見直しが進んできて、18を16にしようとか、17にしようという意見はいいが、この短い周期でただ無投票だったからという理由で議員定数を協議して減らすというのは拙速のような考えがする。次の本当に優秀な議員に出馬を願うのであれば、現在の定数を維持しながら、周りに声をかけて私たちの方で出馬するように促していくのが本当の黒部市の市政のためになる、議員のための策だと思う。それで私は18といった。</p>

I 委員	<p>今年女性議会が始まっている。10月の議会に向けて18名の議員が、今までよく勉強していたが、今年は特に私たちが恥ずかしくなるほど一生懸命勉強している。18人のうちの何人かに本当に議員になったらと言ったら、本当はなりたいたと言った人もいた。クォータ制はあまり好きではないので、自分になりたいと思った人が手を上げればよいと思っている。門戸を広げる意味でも現状の18がいいと思った。</p>
H 委員	<p>私は1名減と発言した。人口減少は大事な問題だと思っている。人口が減ってきてなおかつ市の職員も働き方改革でどんどん減らしていく状況の中で、果たして議会だけが現状維持でいいのかという思いがある。先程から常任委員会の人数の話もしているが、私は生活環境委員長で、1名減なったから議論が深まらなくなったとはあまり思わない。人数ではなくて、委員会に1人1人がどういう思いで挑むかということではないか。もし人数が少なくて駄目であれば、3常任委員会を2にしてもいいのではないかと考えている。</p>
G 委員	<p>私は前期、生活環境委員長をやっていて思ったのは、遅刻はしてくるわ、1年間何もしゃべらないわ、たまにしゃべったと思ったら何を言っているのかわからない、視察に行けば遅刻ばかり、駅員に切符代を払わないから追いかけて、一体何をしているのかと。現状の数は減ってもいい、いてもいい、なくていいと思っている。市民から言われているのは、おかしい議員がいる、なんとかならないかと。全然改善もされないし、前回の全協でも遅刻してくるし、だから市民の皆さんはいらないと。それをどうしていくか考えていかないといけない。まともな普通の規律のある方に出てきてもらうことが最低限である。どうやったらそういう人に出てきていただけるかだと思う。</p>
Q 委員	<p>私が議員になったきっかけは、町内ないし地元で出よと押されたのでそういう気持ちになった。当時言われたことは、出たい人はたくさんいる、出したい人もたくさんいると。ところが自薦他薦、自他が合致したときに初めて手を上げることができるということを聞いた。その頃は町内とか地元から議員を出すということはかなり関心のあるところで、今あまりそう見受けられない。特にコロナ禍でこの2年間はあまりいろんな人と話できないが、いろいろ聞くと減らせとか現状維持とか賛否ある。以前議員定数をテーマにした時も、現状維持でいいという人もいたし、半々ぐらいだった。これはどちらも正しいと思う。決めるのは我々であるが、1年半後の選挙に関してはやはり現状維持。もっと市民の有権者の皆さんには、議員、議会というものにもっと関心を持ってもらいたい。我々がいくら言っても限度があるので、関心を持っている人が行政とか議会とか周りの人にそういうことをどんどん啓発</p>

	<p>してほしいと思う。私も周りの人にはそう言っている。議員も後援活動をやっていると思うが、そういうつてを使いながら議員とは何か、議会とは何か話し合って深めていってほしい。</p>
<p>〇委員</p>	<p>人口減少をどう捉えるか、人口が減っているから議員の数を減らせと。しかし黒部市みたいに海から山も多いところで、これ以上の減少は地域間の格差が生まれることになる。現状でも議員が選出していない地域はなかなか住民の声が届きにくいという問題があるのは確かだと思っている。人口だけではなくて、黒部市は合併して海から山からもっている、谷も含んでいるところもある。本来はそういうところからも出てこられるような定員増もしたいくらいである。</p>
<p>K委員</p>	<p>私も議会改革にいろいろ関わってきた。大きかったのは、議会基本条例と倫理条例であった。倫理条例は政治倫理の問題であるので、議員として市民の代表としてきちっとやらないと駄目だろうということをしつかりと明文化した。議会基本条例で一番大きかったのは、議決権の拡大だと思っている。例えば戦略Kを決めるときに議決権の拡大ということを当局に折衝して、議決権にはしないが今までと違って積み上げの中できちっと議論してほしい、今までの議会だと当局ができあがったものをぼんと上げてくるのではなくて、その前段階からお互いに意見交換をして作ろうというのが非常に大きな成果だった。議決権の拡大の第一発目に黒部市観光基本計画があった。当時産業建設委員会が扱っていた。実は委員会でこれは誰も質問していない。自分たちが作った議決権の拡大を最大限発揮する場で、担当委員会で議案が上がっても発言がなかった。議会人として最後公式に残るのは議事録であり、委員会の中身である。見える化していくためにも議会改革でやってきたことをきちっとやれるような仕組みは作らなければならない。委員会ですら6人なのか8人なのか議論があるが、一時期、6人の委員会を9人にして2つに入ればいいのかと議論もしていた。地域性のことを言えば、おまえは旧宇奈月町全部じゃないかと言われるが、私は宇奈月温泉から出て、その当時、愛本、内山、下立、浦山に別々の候補者がいたので、皆さんが思うほど私は地域に浸透はしていない。戦った相手がいるので。選挙した人は分ると思うが、戦った相手がいる人を応援してくれるほど選挙は甘くない。それでも議会をよくしていかなければならないし、自分自身若くして入っていったので、将来に向けて変えていかなければならないという思いがあって、ずっとやってきた。例えば8号バイパスができて、魚津まで今まで10分で行けるようになった。入善も近くなった。時代は変わっていくものなので、議会も調整して変わっていくべきではないか。もし18人にするのであれば、18</p>



人で今以上に効率時にいろんな議論ができる議会にしなければならない。そのまま現状というのではないのではないか。私は数を減らしたいと思っているが、それが17なのか16なのか15なのかそこまで自分の中ではっきり決まっていない。決めるときには委員会構成も含めて効率化できて、さらに議論を深められるからということを書きたい。無投票という言葉も出た。無投票という言葉自体が残念と思っている。無投票は私たちの責任ではないので、広い意味では市民の皆さんと責任を分かち合わなければならない、魅力ある議会にしなければならないと思いながら。今日初めて自分以外の議員の皆さんの意見を聞いたので、この次のメンバーの方にきちっと残すいい機会ではないかと思う。今月中に提出なので、その時には1人の議員としてきちっと提案をしたい。

6. 各委員からの提案内容（原文のまま）

令和3年9月27日までに、委員から定数及び委員会構成について具体的な提案があった。

定数（4通り）	常任委員会（3通り）
A. 18名（現状維持）	1. 現状の3常任委員会 2. 予算決算常任委員会＋2常任委員会 3. 2常任委員会
B. 17人（1名減）	
C. 16人（2名減）	
D. 15人（3名減）	

〈提案1〉

定数	18
委員会構成	3常任委員会（1常任委員会6名）
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1常任委員会6名、一人1常任委員会所属。</li> <li>現在の委員会構成が最も運営がしやすく妥当であり、特に変更する必要がない。議員定数の削減ありきで、人数調整のための1常任委員会人数削減や委員会複数所属で負担増にすることによるメリットが感じられない。</li> <li>・定数削減に比べ、住民の声を反映させやすい。</li> <li>・令和3年4月の人口40,706人、@2,261人、類似団体平均値に対しても、▲@75人と大きな差は感じられない。</li> <li>・市民の声を細やかにしっかりと受け止めること。行政監視・政策への提言を積極的に行うこと。3常任委員会をバランスよくかつ充実して機能させるには、18名が適当である。</li> <li>・良質な人材とは、持って生まれた資質と後天的に教育・経験によって育まれたものが相俟って生まれるものであり、単に人数を絞れば獲得できるものではない。そうした人材をいかにしてこっちに向かわせるか、経済的に（報酬、年金の面で）考える必要がある。</li> <li>・同等の人数で委員会を構成でき、平等性がある。</li> </ul>
懸案事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口ビジョンが示す、2030年の人口38,352人を想定した場合、4年後を目途に定数削減が必要。</li> <li>・今後の地域のあり方、小学校再編も視野に入れ検討が必要。</li> <li>・女性、若者は我国では統計上、一般的に政治に関心が薄いのが現状である。間口を広げれば入ってくるものでは決してない。どうやって関心を高めてもらおうかである。</li> </ul>

備 考	<p>・現時点では定数 18 名で良いと思う。市民の多様な意見や意思を市政によりの確に反映させるためには現状維持が妥当である。しかし今後議論をしていく中で明確な根拠があれば、削減も必要と考える。</p> <p>議会の資質や前回無投票ということもあり、様々な意見があることも事実である。しかし、まずは議会・議員としての活動を振り返り、より住民に寄り添った活動をするために何が最適かをもっと時間をかけ議論する必要がある。選挙にすることが目的の定数削減はどうか？女性議員や若手議員を増やすという視点も必要であり、そのためには議会としてどのような活動をすべきか議論をすべきと思う。</p> <p>また、現状の活動を鑑みると、自治協議会方式や小学校区方式を考慮するというのも必要と考える。</p> <p>・現状維持の 18 名でよいと思っている。前回の選挙は無投票であり、それにより市民から定数削減の声が上がっているが、削減によって与える影響、例えば政策立法機能への影響や監視機能等への影響を考慮しなければならない。削減することにより、議員が輩出されない地域が発生する。議員が不在という影響は少なからずあると思う。議員がいない地域では住民の声、意見が反映されにくくなるのではないかと考える。ただ、近年、市町村においては 2 割を超えて無投票になっている状況もある。無投票だったから定数を削減するのではなく、無投票になる現実を考えなければならない。なり手不足のために何を解消すべきか考えることが必要と思う。常任委員会については、現在 17 名で、生活環境委員会が 5 名であるが、1 人減っていることによって、意見がそれだけ出てこない現状もあるので、3 常任委員会でも 6 名・6 名・6 名がよいのではないかと考えている。</p> <p>・令和 3 年度黒部市一般会計 226 億 50 万円。人口 7 月現在 40677 人。黒部市には財政力がある。魚津市 177 億 1700 万円。人口 8 月現在 40778 人。</p>
-----	--

〈提案 2〉

定 数	18
委員会構成	2 常任委員会 予算決算特別委員会は現状の全員で行う。
特 長	・現在県内類似団体との一人当たりの人口比較は中位位置であることから現状維持。
懸案事項	・今後の少子化を考えると議員数を再考する必要があると思われる。(将来は削減もあり) ・女性、若い人が議員になりやすい環境作りが必要だと考える。

備 考	・ 少子高齢化、過疎化は議員定数を考える上で、どちらも大切である。世論の意見、議員間の議論も大切にしたい。
-----	---

〈提案3〉

定 数	1 8
委員会構成	—
特 長	—
懸案事項	—
備 考	<p>・ 議員定数を現行のとおり 18 名にすることを提案する。</p> <p>これまで多くの自治体で議員定数の削減が行われてきた。</p> <p>議員定数削減は民意を切り捨てるため非民主的性格を強めており、このような状態が「議会の活性化」を促すどころか、それと逆行し、憲法の定める地方自治、住民代表機関性、首長に対する監視の点で極めて問題である。</p> <p>具体的に定数削減について言うと、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○定数削減は「地方自治の弱体化」になり、住民の声が反映しにくくなる。</li> <li>○議員の定数削減は住民の地方自治への参加を縮小することになり、議員が出にくくなる。</li> <li>○議員定数を減らすことは、住民の代表性が薄れ、住民からすれば、議員は身近な存在から遠くなることになる。</li> <li>○多様な住民意思を議会に反映させるという観点から見ても、これ以上定数削減には問題がある。また、人口の少ない地域では議員を送り出すことが、益々困難になることが予想される。</li> <li>○「経済効率」を過度に重視し、いたずらに議員定数の削減をおこなえば、地方議会に対する民意の反映度が低下するばかりか、議会の主要な機能である行政部に対する管理機能が低下する恐れがある。</li> <li>○18名の議員定数は、議会の「住民代表機能・意思決定機能・行政監視機能」を発揮しうる最低の人数といえる。</li> <li>○これ以上の議員定数削減案は、議会制民主主義を形骸化する恐れがある。</li> <li>○議員のなり手がなから議員定数を削減するという考え方は駄目である。なり手がなければなら何をすべきか考えるべきである。現在1名欠員の17名で、病欠などがあれば実際16人でやることになる。民意が反映されなくなる。</li> </ul>

	<p>・私は平成3年から8回の選挙のうち、今回含めて2回無競争であった。平成11年に旧黒部の定数20に対して無競争であった。その後合併して、黒部16、宇奈月6の定数22で始まり、平成22年から定数20、18と続いている。30年間やってきて、1人2人減らすのにだいたい12年かかっている。今は次期選挙の定数の話である。次期は現状維持でいいと思っている。その4年後はその時の人たちで考えていただきたい。次期選挙は18人で何の欠点もない。</p>
--	--

〈提案4〉

定数	17
委員会構成	3常任委員会（6名・6名・5名）
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が止まらない。</li> <li>・世論の声も大事である。</li> <li>・未来を展望する時、「若い人」「女性」の出やすい環境整備が必要。</li> </ul>
懸案事項	・給料のアップ、年金体制の保障、多様性社会の追求
備考	

〈提案5〉

定数	17
委員会構成	—
特長	—
懸案事項	—
備考	—

〈提案6〉

定数	16
委員会構成	8名ずつの2常任委員会と16名で構成する予算・決算常任委員会（計3常任委員会）
特長	<p>・当初予算・補正予算及び9月に予定される決算も全議員で構成する予算・決算委員会で審議する。</p> <p>二つの常任委員会ではそれぞれ一つの常任委員会に所属し、予算以外のすべての議案審査及び所管重要事項を議論し、より専門性を高める。</p>
懸案事項	—
備考	・先に提示された県内類似6市との比較において、本市の議員一人当たり

	<p>の人口は 2,284 人で中位に位置付けられる。ただし、人口 41,116 人を分母としており、R3 国調速報値で 40,000 人を割った現在、その数値はさらに低くなる。また氷見 17 人(一人当たり 2,749 人)、砺波 18 人(2,686 人)、魚津 17 人(2,451 人)に比しても多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記 3 市は 3 常任委員会制を引き、構成委員 5～6 人(現時点の本市と同じ)だが、常任委員会の構成としては少ないと思われる。定数 15 人の滑川、同 16 人の小矢部と同様 7～8 人の常任委員会構成とし、合わせて全委員で構成する予算・決算常任委員会を新設。当初・補正予算を審議することにより(根室市等の)通年議会と同様の効果を発揮することが可能と考える。</li> <li>・上記が採用されれば、人口 4 万人と仮定し、議員一人当たり 2,500 人の定数 16 人が導き出される。また、市民負託に答え得る良質の人材の確保がより可能になると考える。</li> <li>・新市以後、議員定数は H18 の 22 人、H22 の 20 人、H26 の 18 人と毎回市民意向に沿った形で、定数を減員してきたが、前回 H30 は無投票となった。市民の皆様の意向を改めて考え直す時期と考える。市民は市議会及び議員に対し、無関心あるいはその必要性を疑問視しているのかもしれない。また市民意見の多くは定数減であると考ええる。</li> </ul>
--	---

〈提案 7〉

定数	16
委員会構成	8 名ずつの 2 常任委員会
特長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が続いており、しかも前回選挙は無投票であった。市民は見ていると思う。</li> <li>・保身はやめるべきである。</li> <li>・2 削減で無競争を阻止</li> <li>・2 削減分で報酬を上げる。</li> <li>・年金保障の復活</li> </ul>
懸案事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民サービスの減少</li> <li>・議員のいない所が出てくる。</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少が思ったより急である。</li> <li>・世論(市民)の声は大事である。</li> <li>・定数の議論を次の世代に回さない。</li> </ul>

〈提案8〉

定 数	16
委員会構成	<p>常任委員会を3委員会＋議会運営委員会とする</p> <p>予算決算常任委員会：当初予算、補正予算、決算認定</p> <p>第一委員会：総務管理、防災危機、会計管理、教育委員会、市民病院</p> <p>第二委員会：市民福祉、産業振興、都市創造、企業会計</p>
特 長	<p>以下の3つの目標達成が可能</p> <p>常任委員会の活性化を目指し、延べ委員数を20名以上へ増員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議員1人あたりの市民数を概ね2400人以上とすることが可能。その根拠は、類似団体の平均値2,336名及び、黒部市人口ビジョンの2030年人口を参照した結果。</li> <li>・議員1人あたりの財政規模を6億円以上とすることが可能。その根拠は、類似団体の平均値約5億63百万円。</li> </ul> <p>議会機能強化を進めながら、人口減少時代に対応することが可能</p>
懸案事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2名の削減により市民の幅広い声を代弁していく難易度があがる（議員1人あたり市民数が、2,261人から2,544人）</li> <li>・16振興会、9小学校区、2中学校区の各地区の人口格差を考慮していないこと</li> </ul>
備 考	<p>予算決算常任委員会を創設することで、閉会中の審査などを活用し、実質通年議会の対応が可能となる。また、議案の委員会付託においても、予算関係が一本化されることで全議員が予算に対して審議することが可能となる。</p>

〈提案9〉

定 数	16
委員会構成	<p>市の予算、決算については全員が把握し審査するのが望ましい。一方、財政や事業の運営を審査するのに、2つの常任委員会でも十分可能である。予算決算常任委員会（当然、議選の監査委員は無し）を設置し、市の担当部局等を2つに分割した2常任委員会で良いのではないかと考える。</p> <p>3つの常任委員会を提案する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 予算決算常任委員会（全員16名）</li> <li>② 総務福祉文教委員会（8名）</li> </ol> <p>予算（補正含む）や決算以外の総務管理、市民福祉、教育に関連する議案等を審査する。</p>

	<p>③ 産業建設委員会（８名）          予算（補正含む）や決算以外の産業振興、都市創造に関連する議案等を審査する。</p>
<p>特長</p>	<p>・自治体の人口規模が小さくなれば、財政規模が小さくなるのが一般的であり、議員定数もある程度減少する。議案件数、審査内容も減少（縮小）するのは十分想定される。近隣自治体との広域連携が広がればなおさらである。          委員会を構成する委員数は最低でも常時６～７が必要と考え、委員会の定数は７名以上、予算、決算については全員で審査する。</p>
<p>懸案事項</p>	<p>１．議会選出の監査委員をなくす          議会は基本条例の役割に基づき行政を監視する立場にある。議選監査から議会に監査状況について報告されたことはない。決算審査に加わらず、定数が削減されればなおさらである。          ２．議員の身分保障について          ６５～７０歳定年制に移行する時代の中で、議員退職以降の福利厚生に関する保障等について検討する。          ３．政治や行政に関心と意欲ある議員による活発な議会を望む。</p>
<p>備考</p>	<p>・現状の議員定数１８に固執しない。今後の人口減少、高齢化、広域連携が進む状況の中で、１８名の定数より少ない定数であっても、議会運営、特に常任委員会が活発に審議されるためには、どうすればよいか考えるべきである。          自治体の人口規模が小さくなれば、財政規模が小さくなるのは普通であり、議員定数も減少するのは当然である。議案件数、審査内容も減少（縮小）するのは十分想定される。          ここ数年間の委員会の審査状況を見ると、１つの委員会で審査する内容が少なくなっている（偏っているのかもしれない）ように思う。          一方、委員会を構成する委員数は最低でも常時６～７が必要と考え、委員会の定数は７名以上が適切である。          以上から、議員定数が減少した場合でも、常任委員会において適切な審査が出来るよう委員会の在り方を十分検討すべきである。          現在「新型コロナウイルス対策特別委員会」において予算については、全員で審査し、条例、その他については、各常任委員会で審査している。          市の財政、事業を審査するのに、２つの常任委員会でも十分可能である。          一方、予算、決算については全員が把握し審査するのが望ましいので、予算決算常任委員会（当然、議選の監査委員は無し）を設置し、市の担当部</p>



【黒部市議会 議会改革特別委員会 「議員定数」に関する報告】

	<p>局等を2つに分割した2常任委員会で良いのではないかと考える。兵庫県の3市の取組みがそれに該当するようである。調査・研究すべきと思う。以上より、議員定数は18名未満であっても、これからの議会は十分運営できるものとする。議員定数は16が望ましい。</p>
--	--

〈提案10〉

定数	15
委員会構成	—
特長	—
懸案事項	—
備考	—

〈提案11〉

定数	—
委員会構成	—
特長	—
懸案事項	—
備考	<p>・現在、現状維持、削減で迷っている。10月の中間報告には間に合わないかもしれないが、パブリックコメントや4団体との意見交換、議会報告会での意見などを参考に判断したい。</p>

## 7. 委員会としての提案内容

議員定数と常任委員会のあり方について協議を行い、下記のとおり定数は3通り、常任委員会は3通りの意見に集約された。また、組み合わせでは最大9通りとなる。

議員定数	常任委員会
A. 18名（現状維持）	1. 現状の3常任委員会
B. 17名（1名減）	2. 2常任委員会（1人1所属）
C. 16名（2名減）	3. 2常任委員会+予算決算常任委員会（1人2所属）

協議の過程で、議員定数や常任委員会のあり方について各議員から意見を募り、各案に対して特長と懸案事項を以下のように整理をした。

### 【議員定数について】

議員定数 18名

特長	懸案事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在の委員会構成（3常任委員会×6名）が最も運営しやすい。</li> <li>● 1常任委員会の人数削減が不要。また、複数常任委員会所属の必要がない。</li> <li>● 議員数は、多い方が住民の声を反映しやすい。</li> <li>● 定数削減は「地方自治の弱体化」になり、住民の声が反映しにくい。また、人口の少ない地域では議員を送り出すことが、益々困難になることが予想される。</li> <li>● 議員1人あたりの人口数については、類似団体や周辺団体と比較しても妥当と考えられる。</li> <li>● 議員数は、多い方が地方自治や住民代表機関としての機能が高まり、首長に対する監視等が強化できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 4年後の改選時（令和8年）にも定数問題が残る。</li> <li>● 将来的に削減を再考する必要がある。</li> <li>● 今後の地域のあり方、小学校再編も視野に入れた検討が必要と考えられる。</li> <li>● 若者・女性については、定数を増やして若者・女性議員が増えることではない。関心を高めることが重要となる。</li> <li>● 仕事を持つ市民が立候補するには経済的条件（報酬、年金）が課題となる。</li> </ul>

議員定数 17名

議長	議員定数
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在1名欠員の17名で運営していて支障がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民からの多様な意見を反映しにくい。</li> <li>● 経済的な課題（報酬アップ、年金体制の保障）</li> </ul>

議員定数 16名

議長	議員定数
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人口4万人とすれば、議員16名では、議員1人あたり2500人の市民を担当できる。</li> <li>● 議員1人あたりの市民数を概ね2400人以上とすることが可能になる。（黒部市人口ビジョンの2030年人口に対しても16名では対応可能）。</li> <li>● 議員1人あたりの財政規模を6億円以上とすることが可能になる。</li> <li>● 削減により競争原理が働く。また、無投票による市議会議員選挙をさけるべき。</li> <li>● 議会機能強化を進めながら、人口減少時代に対応することが可能となる。</li> <li>● 人口減少&amp;財政規模縮小により、議案件数や審査内容も減少することが想定される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 2名の削減により市民の幅広い声を代弁していく難易度があがる。</li> <li>● 16振興会、9小学校、2中学校の人口格差を考慮していないこと。</li> <li>● 議員を輩出できない地域がでてくる。</li> <li>● 議員数の減少に応じて、議会選出の監査委員について課題がある。</li> <li>● 経済的な課題（報酬アップ、年金体制の保障）。</li> </ul>

【常任委員会について】

3 常任委員会

特長	懸念事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在の委員会構成が最も運営しやすく妥当である</li> </ul>	(意見なし)

2 常任委員会

特長	懸念事項
(意見なし)	(意見なし)

予算決算常任委員会＋2 常任委員会

特長	懸念事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予算常任委員会は予算関係、2 常任委員会は予算以外としてより専門性をたかめた審議が可能となる。</li> <li>● 予算関連 (補正予算を含め) を全議員で審議することが可能となる。</li> <li>● 常任委員会の活性化を目指し、延べ人数を現状の 18 名から 20 名以上への増員が可能となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 議会選出の監査委員について、選出する妥当性が問われる。</li> </ul>

## 8. 各種団体からの意見聴取

10月22日に中間報告を取りまとめ、11月1日からパブリックコメントが実施されることにあわせて、市内4団体より意見聴取を行った。4団体の選出については、公共性を有すること及び市内全体を対象に活動されていること、そして女性や若年層の団体も含めることとした。なお、聴取する方法については各団体に対して特に形式を指定することなく幅広い意見を聴取できるよう努めた。

### 黒部市自治振興会連絡協議会

11月9日に第2回黒部市自治振興会長会議に議会事務局職員が出席し、中間報告の説明を行い、11月19日に黒部市自治振興会連絡協議会の各地区自治振興会長16名から意見の提出があった。

その内容は、

#### ◆「現状維持」意見

A: 現状維持が良い。「議会改革」というとどうしても削減ありきを感じるがそうではない。あくまでも地方自治の原則から考えた場合には、住民の意向を地域、行政に反映させるため、黒部市としては現状維持が妥当と考える。仮に減らした場合、議員のいない地区の声が、届かなくなり、投票率の低下=議会の軽視につながる。

B: 個人的には現状維持で良い。こうした問題は、選挙にならないから生じたものと思うが、一方で、減らしたからと言って選挙になるとは限らないと考える。

#### ◆「削減」意見

C: 中間報告を見ると、現状維持の意見が半数おられる。このままでは現状維持になるのではないかと心配している。今後、人口は減少していく。そうしたことを踏まえると、次回の4年後には間違いなく定数削減をしなければならないはずであるので、先取りで今削減をしたほうが良いと考える。具体的には2名減の16名が相当と考える。

D: 3年前に無競争であったことや、先般の入善町議選が無競争であったこと等を踏まえて考えると、やはり市民に選ばれて議員になっていただくのがベターと考える。市政を担ってもらうためには熱意のある方が良い。個人的には、来年の4月補欠選挙において、誰も出なければ15名、誰かが出て選挙になれば16名が相当と考える。

E: 10月に全町内会長、評議員とこの件について話し合いをした。意見としては、1名減、

2名減、現状維持の3通りにE地区の意見が分かれたが、半数は1～2名減という意見であった。なお、18名から減らすと地域住民の声が吸い上げられないという意見もあるが、議員は吸い上げる努力、市民自体も意見を出す努力が必要と考える。また、議員報酬が少ないことにより、なり手がいないとも聞くが、そうであれば議員活動でどれくらいが必要なのか、そのあたりを議会としても示すべきである。

F：今後、地域間の連携、地域性が変わってくる。そういうことや人口減少も含めて考えると、今回は思い切って15名への削減が妥当と考えている。

G：地区として考えるのは、もちろん削減方向で進めてもらいたい。減らしたほうが逆に資質が高まるのではないかと考える。現状、欠員1名の17名でやられているので、来年度についてもマイナス1の方向でやっていただきたい。

H：地区のみなさんの前で意見を求めたことはないが、2名削減が良いと考える。理由としては、一人が議長になって残りが偶数だと、いつまで経っても結論がでなかったという他の事例も踏まえて、議員定数の理想は偶数だろうと考える。また、無競争状態が続くと議員の質が下がることも懸念されることから、選挙になるような、互いが切磋琢磨するような仕掛けがあって良いのではないかと考える。

I：地区のみなさんの中で決を採ったことはないが、一人ずつ話をしたりする中では、具体的に1～2名という話ではないが定数を減らしていいのではないかと意見が多い。中間報告の意見の中には、削減することで「多様な意見が出なくなるのでは」「幅広い声を代弁する人がいなくなる」というような話もあるようだが、選挙になれば、議員も自分はこのようにして地区を越えて頑張りたいということで動いてもらえば良いと考える。

J：私は削減賛成です。人口も減っていくし、小中学校も減っているので、議員定数も削っていくべきと考える。基本的には現在の17名からそれ以下にしてもらいたい。やはり、競争することで質を上げてもらい、議員のいない地区にも目をかけてほしい。次回の選挙から減らしてほしい。

K：私どもも正式に役員会でこのことについて意見聴取したことはないが、雰囲気的には16名が一番妥当ではないかと考える。そうすれば、議員の方々も今まで以上に地区に足を運んで、今どういう問題があるのか、どうしていけば黒部市がもっと良くなるのか、もっと真剣になれるのではないかとこの思いがある。

L：書類を見た段階では、現状維持で良いのではないかと考えていたが、みなさんの話を聞き、今現在欠員1名で成り立っているのであれば、削減で良いのではないか。報酬問題や年金問題については増額してもらい、その分、資質を高め、議員には「先生」と呼ばれるような存在になってもらいたい。

M：削減したほうが良い。それも、はっきり言えば16名。地区の細かいことは各振興会長がほとんど議員の役目を果たしており、地区要望等もしている。議員には、地区を越えて、もっと黒部市の将来像、県のこと、日本のことを考えられる人に出てもらいたい。そのためには、やはり競争し、特にそこで若い層が出てくれば、魅力ある、活気ある市になるのではないかと期待している。

N：議会には、将来の市の発展がどうあるべきか、もっと高いレベルで論じていただくとともに、市の職員のレベルが毎年上がっていくような議員活動を期待したい。議員定数は、思い切って15名まで削減してほしい。

◆「その他」意見

O：現時点では、地区で何も話していないので何とも言えないが、やはり情熱のある人を議会に送り出すことが大前提と考える。議論が白熱し、もう少し多数の意見を入れる必要がある等となれば議員増にしてもいいわけであるし、やはり議員が熱意を持って議会活動ができるような状況を作っていかなければならないと考える。そういう点では選挙は議員の意思表示の場でもあるので選挙ができるような人数をきちっとおさえる必要がある。

P：自治振興会では議論をしていないので、あくまでも私見として意見をすると、なぜ今議員定数なのか。かつて行政改革の一環で国会や地方議会で「身を切る」ことで定数問題が議論されたことがあるが、今回、市議会で定数問題を取り上げる目的が伝わってこない。選挙になるかどうかはその時の状況次第でもあり、以前無競争であったからと言って、定数問題と結びつけるのは妥当かどうか。また、中間報告を見る限り、議会の意見がばらばらで方向性も見えない。人口減少時代を見据えての議論だろうが、人口減少に伴って考えていくテーマは議員定数にとどまらない。これからの市のあり方を議会でもっと議論すべきではないか。そのなかで、議員の役割、活動も踏まえ定数をしっかりしてほしい。もっと市議会の活動が見えるように活性化してもらい、地域に関わらず、多様な市民の声を反映することを考えてもらいたい。

## 黒部商工会議所

11月16日に黒部商工会議所において正副会頭から正副委員長に対して意見が提出された。会議所からは、常議員会参加の33名（正副会頭4名、常議員26名、監査3名）に対して行ったアンケート調査の結果を意見としていただいた。

その内容は、

調査期間：11月1日から11月10日、回収数：21人 回収率：63.6%。

問1：現在の議員定数18名（欠員1名）の議員定数について

- |           |     |
|-----------|-----|
| ①現行のままでよい | 19% |
| ②定数を減らすべき | 71% |
| ③無回答      | 10% |

問2-1：常任委員会の数について

- |              |     |
|--------------|-----|
| ①現行のままでよい    | 71% |
| ②委員会の数を増やすべき | 0%  |
| ③委員会の数を減らすべき | 19% |
| ④無回答         | 10% |

問2-2：常任委員会の編成について

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| ①現行の1議員1常任委員会の所属でよい | 48% |
| ②複数の常任委員会に所属すべき     | 43% |
| ③無回答                | 9%  |



No.	問1	問2	問2-2	自由意見
1	① 選任理由 黒部市の現状、将来を真剣に考えているか、市議を ○	① 選任理由 各別に委員会に所属されていると思うので、兼任委員 に都合が悪い方もおられる中、軽装持たせた数、編成を ○	① 選任理由 前回の苦えと同じ ○	自由意見 議員会長や市内各会との連携で地域の意見を吸い上げ、地区の人には説明や報告があったら良いと思 う。
2	② 無駄な人が多い、税金の無駄遣い。 ○	② 空欄 ○	○	地域のことや、将来の事について真剣に話し合いを欲しい。
3	③ 別荘に投資により、同級生自治体に比べて、議員定数が多いの は明らか。15名が適正 ○	○ 候補に特別委員会を設置して、機動的に対応すべき。 ○	○	もっと未来志向であるべき。
4	④ 他市町村と比較して ○	○ 特に関心なし。 ○	○	空欄
5	⑤ 議員の資質に掛かる問題点、黒部市より多い。 ○	○ 空欄 ○	○ 議員はもっと働くべき。(市民のため) ○	議会には、当局と馴れ合いの権威を感じる。
6	⑥ 選挙が厳しく、市民の声を届けにくい。 ○	○ 空欄 ○	○ 問題点があった時、共通する委員会に属することであれ ば、複数の委員会に入る方が良い。 ○	もっと市民の声を、色々な角度で聞いてほしいと思う。
7	⑦ 黒部市全体を考えると、定数を減らしても良い と思うし、レベルアップが要めるのでは... ○	○ 空欄 ○	○ 選挙でなく、全体の動きが見える議員で争って欲しい。 ○	多くの学びをしている議員もおられることは承知しているが、市民目線まで下りて活動して欲しい。議員数 を減らし、地域の代表であり、市の代表である思いも併せて欲しい。市民の考え方も変化しなければと思
8	⑧ 全国的に平均的な人数のようだから。 ○	○ 1委員会6名くらいが、適当だと思うため。 ○	○ 任期が2年となっているため。 ○	空欄
9	⑨ 定数を減らす理由が無い。定数を減らして有事の際に機能しな くなる方が問題。 ○	○ 効果、編成を改善する必要があるのか判らない。 ○	○ 複数の兼任委員会に所属する理由があるのなら、先に人数 編成を改善すべき。対応できないなら臨時でも議員が必要と 思われる。現状だと、他の委員会活動が妨げられていない ○	空欄
10	⑩ 人口減が早く、4年に一度は、社会福祉も減らして、検討してい くべき。 ○	○ 人口減が早いので、減らすのが当然。委員会 ○	○ 現状だと、他の委員会活動が妨げられていない ○	空欄
11	⑪ 議員一人当たり2500人の市民でよい。 ○	○ 空欄 ○	○ 必要があれば特別委員会も設置できるので、兼任である常 任委員会は1つの所属でよい。 ○	空欄
12	⑫ どちらともいえない。理由は別記1 ○	○ どちらともいえない。理由は別記2 ○	○ 空欄 ○	市民の意見が反映できる議員派遣者や今後とも進めて欲しい。大要な時代だが、魅力ある都市「黒部」の創造 には議員の力が重要です。期待、責任は大きいです。今後とも頑張ってください。
13	⑬ 空欄 ○	○ 空欄 ○	○ 空欄 ○	具体的に仕事にかかわったことが無く、大切な改革に対して特に要望はありません。
14	⑭ 議員のなり手が少ないのに、無投票で決り込むようでは税金の 無駄遣いではないか。 ○	○ 特別問題が現時点であるのか?無いのなら現行でよいので は? ○	○ 専念してもらいたいので。 ○	空欄
15	⑮ 1地区1名程度でよいと思う。15名 ○	○ 委員定数ではなく、委員会の構成議員数を5名に減らすべ ○	○ 委員会の運営が早から。 ○	無投票で選ばれた議員が多いために、議員の資質が低い(議員報酬のみを目的にしている)。株式会社黒 部市の発案で、市政運営を担うべき。
16	⑯ 議員の質を上げるためにも減らすべき。選挙で選ばれた、質問内 容も無いものであったり、黒部市の対応に苦慮してない。 ○	○ 委員会は、それぞれに大切な問題提起に審議してもらった ら、必要であれば、現行のままでもよい。 ○	○ 特に新人議員には、機動的に各委員会に参加できるように して欲しい。スベンチャリストは不要。問題意識を持って色々物 ○	向し、議員の質を高める努力をお互いして欲しい。市民の付託に応えて、若者が立派にたくましくなる議 会を目指して欲しい。
17	⑰ 合併15周年を迎えて、議員定数も減らさなければならぬ。 ○	○ 空欄 ○	○ 空欄 ○	空欄
18	⑱ 地域制を要していくべきでは。 ○	○ 但し、兼任委員会が6名である必要はないので、5名でも可 能ではないか。 ○	○ 兼任して、しっかり責任を持っていただければ良いと思えま す ○	もっとまちづくり等に関わって欲しい。
19	⑲ 市民は、議員の行動を自らしている。品物に劣る場合、相対しい の必要なか。 ○	○ 1つの委員会でも、成果を上げて欲しい。複数をごなせる とは思えない。 ○	○ 1つの委員会でも、成果を上げて欲しい。複数をごなせる とは思えない。 ○	理念、取り組みを公表し、それに向かっている。実績の報告も必要。
20	⑳ 黒部市の人口が合併しても減り続けている。⑳ITやデジタル 化で、人の動きが少なくなるとも思 ○	○ 空欄 ○	○ 空欄 ○	空欄
21	㉑ 人口減少や議案件数等の減少が懸念され、16名でも対応が可 能になるのでは。 ○	○ 現行でいいと思うが、議員定数は減らすべき。 ○	○ 広い視野で、市政に取り組んでいただきたい。 ○	市民のために、誠実な協議・視察を行い、市政に反映していただきたいと思います。
22				
計	4	15	0	10
9				

別記1 議員の仕事内容や、仕事量を把握していないため、人口が減少傾向にあると、議員の仕事が減るとは思えない。現状で、議員会が過  
時間以上の仕事量があるのではあれば、減らすことは無いと思う。ただ、そこまでの仕事量がないのであれば、議員に兼任できる人数にまで減らし、議  
員報酬を上げれば議員としての責任も随分と減るのではないかと思う。

別記2 ●兼任委員会について  
その時に合った兼任委員会の数、種類に柔軟に添えていけばよい。又、そのような規則にすればよいと思う。

## 公益社団法人黒部青年会議所

11月15日に書面にて意見が提出された。その内容は、

### 1 意見の取りまとめ方法

当青年会議所に所属する全会員に対し、文書又は口頭にて黒部市議会の議会改革に対する意見を求め、寄せられた意見を基に本職を含む執行部会員において協議し、当青年会議所としての意見をとりまとめました。

### 2 意見内容

#### (1) 議員定数について

2名減の16名が妥当と考えます。

#### (2) 常任委員会のあり方について

常任委員会数及び1人当たりの所属委員会数については、現状維持のままが良いと考えます。

### 3 意見の理由

#### (1) 議員定数について

定数削減すべきと考えた一番の理由は、黒部市の人口が減少しているためで、全国と同規模の人口を抱える自治体と比較したところ黒部市の人口に対する議員定数は全国平均を上回っています。

また、県内の自治体と比較しても黒部市よりも多くの人口を抱える自治体の議員定数が黒部市と同数若しくは黒部市よりも少ない議員定数となっていることが見受けられ、現状の人口比から考えても議員定数を削減することが妥当と考えられます。

そして、現在の人口比だけで議員定数の削減数だけを考慮した場合は1名減が妥当なのかもしれませんが、全国的に人口減少とそれに伴う議員定数の削減が加速度的に進むものと考えられ、今回1名だけの定数削減とした場合、再び4年後に議員定数の削減しなければいけない状況となることが想定され、短期間の間に何度も議員定数の見直しを図らなければいけないのは、必ずしも健全とは言えません。

さらに社会全体の目覚ましいIoT、ICTの発達を受けて、様々な活動効率が向上し、就労者一人ひとりに対して高い生産性が求められるようになってきています。これは議員活動においても例外ではなく、そういった技術の発達により、より少ない人数であってもこれまで同様若しくはこれまで以上のパフォーマンスをあげることが期待されます。

一方で、一部の議員の資質、モラルの低下や選挙が無投票であること等と議員定数の増減については混同して考えられがちではありますが、これはある程度切り離して考えるべきであり、議員定数に関し、いかなる決定がなされたとしても引き続き、一人ひとりの議員のモラルや資質の向上には努めていただきたいと感じています。

ただ、議員定数を減らせば、選挙において従前より多くの支持を必要とすることになり、

特定の地域のことだけでなく、より広域的なものの方を考へるようになり、間接的ではあります、議員の質を高めることにつながることを期待されます。

なお、議員定数を見直すと同時に、成り手不足問題を解消するために議員報酬や年金保障制度等についても検討し直す必要があります。

以上のことを総合的に判断し、議員定数については、「2名の削減」を妥当と判断しました。

## (2) 常任委員会のあり方について

常任委員会の数については、議員定数削減を前提とした場合であっても減らす必要はないと考へます。

現状すでに欠員1名の17名での運営を行っている上、魚津市議会も定数17名、3つの常任委員会という形で運営しており、必ずしも一委員会あたり6名の議員というところに拘る理由が見当たりません。

前記のとおり IoT 等が発達したことにより、様々な面において活動効率が上がっていることから、たとえ人数が減ったとしてもより多くのこと、深い議論ができると考へられます。

また、委員会数を3つから2つの委員会にしてしまうと、一委員会当たりの議員数がこれまでよりも多くなってしまうため、一人ひとりの議員の常任委員会に対する責任というものが薄れてしまうだけでなく、一つの委員会が所管する案件が多岐にわたり、いずれかの分野に対する取り組みが疎かになってしまう可能性もあります。

さらに1人の議員が複数の常任委員会に所属することについても、責任の希薄化が進んでしまう恐れがあるため、1人の議員が所属する常任委員会数は全議員平等に1つの委員会とすべきだと考へます。

以上の状況から、常任委員会数及び1人当たりの所属委員会数については、現状維持のままが良いと考へます。

ただし、近年は社会環境が大きく変化してきており、IT 関連に特化した委員会を設置するなど、社会情勢に合わせた委員会の設置をお願いしたいと考へています。

## 黒部市女性団体連絡協議会

11月8日に黒部市女性団体連絡協議会の役員会へ正副委員長が出席し中間報告の説明を行った。なお、会として会員の意見を集約することは困難との判断から、後日その会議で発言された意見を書面にて提出いただいた。

その内容は、

役員8名中

・18名（現状維持）：5名      ・17名（1名減）：0名      ・16名（2名減）：3名

意見として

- 定数18名でよい。定数を減らすと女性の声がなくなる。女性の向上がないことも苦しい。皆で応援したい。
- 定数は今まで通りでよい。議員の質の問題であり、黒部を良くしていく人材を希望する。
- 来年、市長選、補選、市議選があるので、現状の定数18名でよい。
- 定数18名でよい。身近な地元の意見を話せる。若い人が議員になってもらえるよう報酬を少し上げる。
- 定数は現状維持でよい。定数を減らせば意見も少なくなるし、地域もよくならないと思う。地区の議員に意見を取り入れてもらいやすい。
- 定数は16名。現状17名であり、定数割れにならないためにも議員として議会の有効強化を進めるための人材として16名でありたい。また、議員報酬を増やすべき。
- 議員定数2名削減の16名が良い。定数を減らして、議員報酬を増やすことを考えてほしい。いくら、ボランティア精神を、と言っても、金銭的に恵まれないと、今後も議員に出馬する人が出てこない。
- 人口にすれば議員定数16名で1人あたり2500人は妥当と思われる。その分、大変な議員の報酬を増やしてほしい。16地区（振興会）に対して、各地区に議員1名で丁度いい。ただし、人口格差を考慮していかなければならない。

## 9. 議会報告会の開催

11月17日に令和3年度議会報告会が開催された。その中で、議会改革特別委員会の内容が報告され、議員定数について参加者から意見が発言された。

その内容については、議会報告会の報告書にて取りまとめている。

開催日：令和3年11月17日

開催場所：黒部市役所 会議室

参加者：46名

## 10. パブリックコメントの実施

本書 9 頁の概要にてパブリックコメントを実施した。期間中 8 名の方より意見が寄せられ、その回答について委員会で協議を行い、委員会として回答を行った。

その内容は、

### 意見①

ご意見の主旨：

議員定数は 18 名の現状維持。可能であれば 20 名が望ましい。

「成長が持続する自治体を目指す」や「市民の声を市政に反映する」ためには、議員定数は少ないより多い方が良い。

議員報酬、選挙区制度、自治振興会との役割のすみ分けを明確にすることも必要ではないか。

また、一度だけ委員会を傍聴したが、議論しているとはいえ残念であった。

議員が現在の報酬に見合った議会活動（各委員会や地域での役割をも含め）をするのであれば削減の必要はなく、定数削減をしても質が変わらなければ 18 名も 16 名も同じだと思う。

市議会議員はどうあるべきかを議論いただき、市民が評価する議会活動を考えることが必要である。

回答：

委員会を傍聴いただき感謝申し上げます。また、ご期待に応えられる会議内容でなかったご指摘を真摯に受け止めます。

「議員数が多い方が良い」との意見は複数の議員が提言していました。今後も議論を尽くし、市民から評価いただける活動となるよう議会全体で努めます。

また、ご指摘の議員報酬、選挙区制度、自治振興会との役割については議論をしておりません。今回は、3つの課題に絞り議論を行ってきました。特に選挙区制度については議会として議論すべきことと認識しており、今後の課題の1つとして受け止めます。

### 意見②

ご意見の主旨：

議員定数を削減すると住民の声が反映しにくくなり、議会運営に支障があるというが、公務に遅刻したり、何も意見を言わなかったりする議員がいるのが現状であれば、市民から議員定数は減らすべきと言われても仕方がない。

前回選挙の無投票と議員削減とはリンクしないと思っているが、前回、定員割れを確認して直前で立候補した方がいたことも事実である。

議員定数がどのような結果になろうと、議会として、市民が納得できる説明責任をしっかりと果たし理解を求める姿勢が大切である。

回答：

令和2年12月議会において「黒部市議会議員政治倫理条例」を制定しました。引き続き市民の皆様から信頼される議会を目指し、活動してまいります。

市議選について、議会としての取組には限界があることをご理解願います。なお、厳しい「説明責任」のご指摘に関して、議会全体として、議会基本条例で定められた「議会の活動原則」を遵守し、市民から信頼される議会を引き続き目指してまいります。

### 意見③

ご意見の主旨：

議員定数15名（3名減）を期待していたが、16名を提言する。

理由として、議会の役割は政策提案（市の中長期的な指針や展望を示す）と行政の監視機能を果たすことであり、それを主力に取り組んで欲しい。

各自治振興会では地域課題を把握し、安全・安心で快適な生活のため取り組んでおり、地区要望については市議の必要なく、自治振興会に任せれば良い。

姉妹都市の米国メーコン・ビブ郡を世界標準とすれば、議員は10名前後でも良い。地区要望のあり方や議員定数を10名前後とすることを国際地方都市、黒部市（議会）から全国へ展開してほしい。

また、議員定数16名の懸案事項から議員が議員を削減したくない気持ちは理解できるが、定期的な地区要望会の開催や議会と監査委員との連携等の対応により解決策はある。

議員定数削減による効果としては、真剣に議員定数削減に取り組んだことが、市民、県民、国民から評価され「ス：住みたい（移住）、イ：行きたい（観光）、ス：住みよい黒部市」につながる。黒部市が、健全財政で、観光都市になることを期待したい。

県内の市議会議員選挙の状況から、他市議会に遅れないよう16名を提言する。

回答：

ご指摘の16の自治振興会との役割分担等については、複数の議員より、振興会との役割分担や市内16地区のあり方について意見はありましたが、今回は委員会として議論しておりません。今後の課題として受け止めます。

県内他市議会および市議会議員選挙の状況については各議員により認識は異なりますが、無投票ではなく選挙戦となることが望ましいとの意見が大多数でした。

日本と米国では諸制度が異なりますが、ご提言いただいた世界にむけて発信していく「地方都市 黒部市」の推進について市議会において共有させて頂きます。

意見④

ご意見の主旨：

18名から16名に削減する。

- ・今後人口減が進む中現状の18名では多すぎると考える。将来を見越して、16名すべきと考える。
- ・委員会活動の人員については議員間で調整
- ・議員定数の削減は議員の問題ではなく市民の市政（議会）に対する関心の無さである。もっと地区・地域の方が関心を持つべきである。
- ・選挙戦を行う事で議員の資質が選択され市政の活性化と発展が見込まれる。
- ・地区から何人ではなく黒部市全体を考える議員であって欲しい。

回答：

ご指摘の将来を見越した議員定数については、2030年を見据えた案や次々回（令和8年）以降の選挙において検討など複数の議員から様々な意見がありました。ご指摘の地区割ではなく、黒部市全体を考える議員を期待していただいていることについて、議会として重く受け止めさせていただきます。

意見⑤

ご意見の主旨：

議員定数は現状の18名でよい。

市議会議員の任務は、市政に対する市民（地域）の意見反映と市長及び市行政の監視と考える。類似団体・近隣団体との各種比較においても議員定数は現状においては妥当である。

定数削減は、地域住民の声が市政に届かなくなり多様な意見や意思を的確に反映することが難しくなる。また、人口の少ない地域からは、地元の意見要望等の詳細を承知している議員を送り出すことが困難になり、結果として市議会・議員への関心が少なくなり投票率の低下につながる。

回答：

委員会の議論の中では、多様な意見を反映するために議員数が多い方がよいとの考え方や、類似団体・近隣団体との比較においても黒部市が中位であるとの意見がありました。

ご指摘の意見については、同様の意見が委員会に複数の議員から提案されております。



意見⑥

ご意見の主旨：

議員定数は削減ではなく現在の定数 18 名を維持し、人口が少ない地域にも目配りできるよう、黒部市が発展し「住みたい町（市）」になるよう市当局と切磋琢磨していただきたい。

①地域の課題・希望を行政に直接反映するのは、まずは地域の代表である議員である。

②市全体の諸問題・課題を提起し、いろいろな角度で意見を出し合い、方向性を見出して行けるよう議員のレベルを上げていただきたい。

③定数削減ありきの問題ではなく、黒部市民の幸福度を上げ、黒部市に愛着を感じてもらうには、各議員の建設的な意見の発信が必要である。

回答：

委員会の議論の中では、各地域の実情を理解している議員が必要との意見がありました。一方で、各地域の範囲の定義にまで踏み込んだ意見集約までには至っておりません。ご指摘の①～③については、委員会の中で複数の議員から発言や提案がありました。今後とも市議会の中で共有していくことと認識しております。

意見⑦

ご意見の主旨：

現在、中学校が 2 校となっており、今後、人口減少に伴い小学校区が統合されることを鑑みても、将来を見越して思い切って今の段階で議員定数を 15 名とすべきと考える。

また、議員の「資質や言動」について大変困惑している。しっかりした人格や能力を有している者が立候補しやすい環境を整備していただきたい。

回答：

議論の中で、15 名を提案された議員もおりましたが、委員会の最終的な提案では、各議員から提案があった 16 名から 18 名の議員定数とし、15 名の提案は委員会として採用しておりません。ご指摘の環境整備や議員の資質については、黒部市議会基本条例や黒部市議会議員政治倫理条例に基づき、今後とも議会全体で取り組んでまいります。

意見⑧

ご意見の主旨：

議員定数は現状の 18 名でよい。

市議会議員選挙において立候補者の減少傾向、議員のなり手不足の傾向が見られる。議員専属では生活していくだけの報酬が得られない現実があり、待遇面の改善が必要である。特に若手議員が生まれる環境になっていない。市議会議員としての環境整備をし

てから定数の見直しをしても遅くない。

市議会議員としての役割は、市民から喜ばれる黒部市の将来構想に重きを置くことはもちろん、地域の課題解決を図りながら地域の生活環境の向上を進めることも大切である。地域をどう区分するかも重要になってくる。

回答：

議員報酬については、各議員からの意見もありましたが、今回の委員会において、議員自らの待遇となること及び特別職報酬等審議会でご審議いただく必要があることから、委員会として報酬や待遇については議論を行わず、課題があることのみ確認しています。

環境整備をしてから定数を見直した方がよいとのご意見ですが、令和4年10月に次期改選があることを踏まえ、令和3年12月を目途に結論を出すことといたしました。

## 報告書のとりまとめ

令和3年11月30日に本委員会を開催し、報告書について全委員で取りまとめを行い、全会一致にてその内容を決定した。委員会としては、この報告書をもって議員定数に関する協議・検討を終了する。なお、議員定数及び常任委員会の具体的な改編については、令和2年12月の申し合わせ通り、本委員会で取り扱わないこととした。これは、本委員会の進行を、議員定数について課題を整理し、黒部市のあるべき市議会の姿を議論することとしたためである。これまで議論してきたことを整理し、本委員会の報告とする。

## 編集後記

地方議会の議員数は減少傾向にあり、投票率も低下の一途であるなど、住民の関心の低さ、なり手不足は深刻な問題となっています。そのような中、「常任委員会のあり方」、「類似団体・近隣団体との比較」及び「定数18名における議会のあり方」の三つの課題について議論をしてきました。それぞれの提案内容にはメリットデメリットがあり、絞り込みには慎重を期しましたが、どの委員も市民の皆さまに向き合いながらの意見を述べているのが印象的でした。次は、なり手不足や地域のあり方にも目を向け、市民の皆さまの関心を喚起し、より市議会の存在感を高められるような議論を重ねていければと思います。

